

(2) 2019 年度第 4 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	185
人文学部	人類文化学科	190
人文学部	心理人間学科	198
人文学部	日本文化学科	203
外国語学部	英米学科	208
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	217
外国語学部	フランス学科	220
外国語学部	ドイツ学科	224
外国語学部	アジア学科	229
経済学部	経済学科	232
経営学部	経営学科	239
法学部	法律学科	250
総合政策学部	総合政策学科	256
理工学部	システム数理学科	267
理工学部	ソフトウェア工学科	269
理工学部	機械電子制御工学科	272
国際教養学部	国際教養学科	276
短期大学部	英語科	283
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	285
教職センター		287
情報センター		289
外国語教育センター		289
国際センター		300
体育教育センター		301
南山宗教文化研究所		302
人類学研究所		302
社会倫理研究所		303

非常勤教員

【所属】

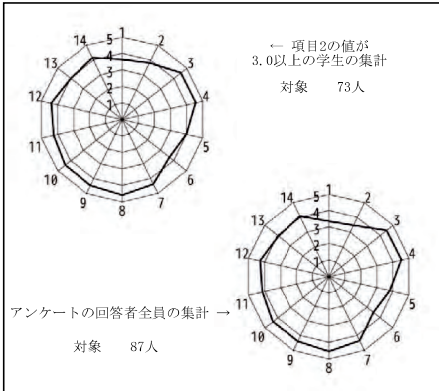
人文学部	人類文化学科	303
人文学部	心理人間学科	306
人文学部	日本文化学科	307
外国語学部	英米学科	309
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	310
外国語学部	フランス学科	313
外国語学部	ドイツ学科	315
外国語学部	アジア学科	316
経済学部	経済学科	318
経営学部	経営学科	321
法学部	法律学科	322
総合政策学部	総合政策学科	325
国際教養学部	国際教養学科	327
共通教育	仏語	328
共通教育	中国語	329
共通教育	日本語	331
共通教育	共通	333
共通教育	体育	343
教職センター		343
外国語教育センター		345

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論〔I〕1	レーダーチャートなし (回答数4件以下のため集計しない)
授業コード	10A01-011	
教員名	SUSAI, Raj	
教員コード	101347	
登録人数	8	
回答数	4	
回答率	50.0%	
休講回数	0 回	
補講回数	0 回	
授業評価結果を踏まえた点検・評価		

第4Qにおいて実施した、宗教論科目の受講生はいつもの時よりも少なく、穏やかクラスでした。受講生が六人しかいなかったの、一人一人に気を配ることができたと思われる。シラバス通り授業が進められた。人数が少ない分、多くの情報を取り入れることもできた。授業の到達目標が達成されたと思われる。学生も広く、世界宗教についてまなんだ。受講生は宗教学に興味を見せたが、積極的に何かを聞くまた行うということとはなかった。受講生の興味を高めるために、映像などを見せながら、宗教の概念、内容、発展、現状といった様々な事柄をわかりやすく説明した。学生同士のディスカッションやプレゼンテーションを積極化すればよかったのかなという、改善点が見受けられます。人数が少なっ多分他何かができると思われる。シラバスだけではなく、受講生の興味、また今知りたいと思っている宗教思想などを伺いながら、授業の内容を深めることもできると思われる。全体的に、シラバスに忠実に内容を伝え、到達目標に達成できた授業であった。

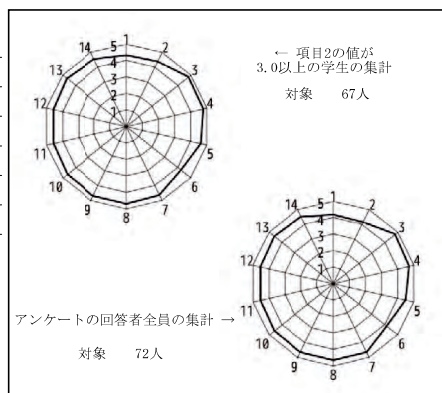
2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[J]2	
授業コード	10A01-012	
教員名	KISALA, Robert	
教員コード	018275	
登録人数	112	
回答数	87	
回答率	77.7%	
休講回数	0 回	
補講回数	0 回	
授業評価結果を踏まえた点検・評価		

本講義の到達目標として「宗教についての理解を深めている」と「現代社会における宗教の位置・役割を考察することができるようになっていく」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号5：平均値3.84；設問番号6：平均値3.49）から、学生らは到達目標を十分理解して授業に取り組んでいたとは言い難い。その理由として、学生が授業の内容と到達目標を意識的に繋げて理解するような取り組みが十分ではなかったと考えられる。一方、自由記述式設問の回答結果からは特にパワーポイントと映像資料の使用は積極的に評価されていると言える。また、質問の機会が十分に設けられていたことが指摘されている。本講義の改善点として、学生が講義の到達目標を意識させるためにさらなる工夫を考えている。学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明も取り入れながら毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認することに努める。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[G]
授業コード 10A01-017
教員名 佐藤 啓介
教員コード 102874
登録人数 146
回答数 72
回答率 49.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

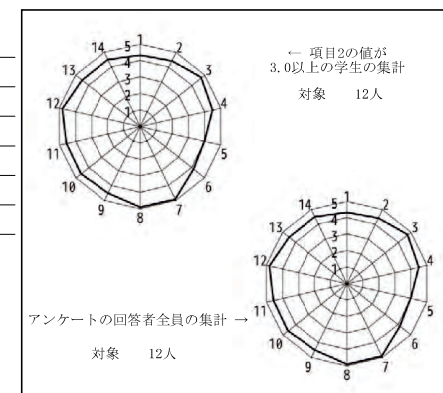


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目の到達目標は「1. 宗教を構成する基本的な要素や、その社会における役割を理解している」「2. 宗教的なものに対する人間の関心や関わりを考えることで、人間そのものへの理解が深まっている」「3. 現代世界において多様な信仰をもつ人々に対する寛容や理解の姿勢を身につけている」「4. 無宗教から宗教を考える視点や、宗教のもつある種の危うさへのまなざしなど、宗教を多角的に考えられる」の4点であったが、項目「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」が4.60であるなど、学生が新たに触れる宗教の知識・視点の獲得という目標は達成できたと思われる。②全体的な満足度が4.49など、おおむね授業運営の方法についても、よい評価が得られていると思われる。特に、授業の運営のペースや1回あたりの時間配分について高い評価が得られた。③「マイクを使わないでほしい」（十分聞こえる）という意見が数件あった。これは、授業内で当初マイクを使わずに授業していたところ、マイク使用の希望があったため使用することにしたのだが、そのあたりの音量の調整は今後の改善点としたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語II講読[HC]＜全＞1
授業コード 11J06-001
教員名 井上 淳
教員コード 100301
登録人数 22
回答数 12
回答率 54.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定目標には到達できた。評価は概ね良かった。7と8が4.92、全体の満足度の14が4.50であった。今回の原典解説はトールキン作『ホビットの冒険』である。竜に占領されている山城に財宝を奪回しに行くための地図をガンダルフがトーリンたちに見せる場面。日本語訳は次の通り。

(1) 赤い笠が付いた巨大なランプの光の中で〔ガンダルフは〕テーブルの上に地図のようなパピルス紙を広げました。

(2) 「トーリン、これは あなたの祖父、スロールによって製作されたものだ」とガンダルフは言いました。「あの山の略図だよ」

(3) バーリンが言いました。「あの竜が 赤色で山の上に印されていますね」

(4) 「君たちが注意を向けていないことが一つある」と魔法使いは言いました。「それは秘密の入口のことだ。」

(5) 西の斜面にあるそのルーン文字と、別のルーン文字列からそれを指さしている手が見えるかね？

それが 下層の中庭への隠された通路を示しているのだ」

(そして、しばし この地図をめぐる議論された後に)

(6) 「そういえば」とガンダルフは続けました。

「この地図は鍵と一組にされていたことを忘れていた。小さな、奇妙な鍵だ」

(7) 「ほら」そう言ってガンダルフは、

長い軸と複雑な歯を持つ銀で作られた鍵をトーリンに渡しました。

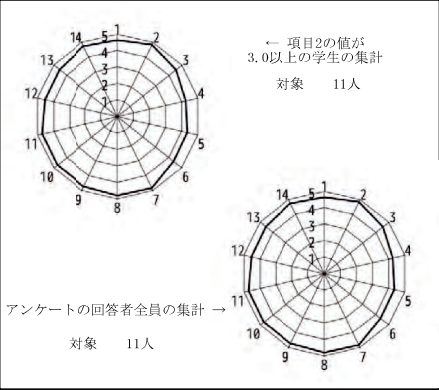
(8) 「これを大切に持っていなさい」

「もちろん、大切に持っておきます」とトーリンは答えました。

これからも、できるだけ興味深いラテン語原典を探してゆきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語II講読＜全＞2
授業コード	11J06-002
教員名	松根 伸治
教員コード	101833
登録人数	12
回答数	11
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



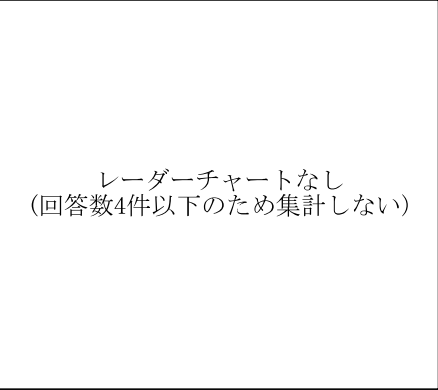
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスの到達目標「辞書を引きながら平易なラテン語文を訳すことができる」について、提出された二度の読解レポートの内容と授業でのやりとりから、読解の基本的方法は身につけることができたかと判断できる。だが、受講生の自己評価はやや厳しく、設問6（この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）の評価は4.36であった。このことは、設問5（この授業の到達目標を理解することができましたか）が同じく4.36で、相対的に低い数字であることと関連していそうである。次年度は、めざす目標や水準を授業でもっと丁寧に示すようにしたい。ほかに低い項目は、設問4（授業の構成や進行速度）の4.27である。おそらく授業後半で、課題が多く進捗が遅いと感じた人と、逆に、解説や復習がくどすぎると感じた人の両方があったのではないかとと思われる。受講者間にやや力の差が出てしまい、うまくいかなかった面を反省している。

クラスの多くが4月にラテン語を始めて一年間取り組んできた人なので、やはり年度末の達成感は大きかったと思われ、設問14（全体としての満足度）は4.73と高い評価だった。自由記述には「配られる資料が興味深かった」「楽しく学べた」「ラテン語で書かれている文章の内容に関係のある本を紹介してくれたところ」とあり、工夫した効果が出てよかった。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語IV講読＜全＞
授業コード	11J08-001
教員名	岡崎 隆哲
教員コード	103614
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

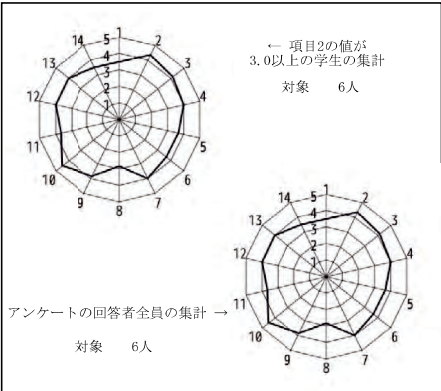
①開講当初の目標として「初級から中級レベルのラテン語の文献に親しみ、中級レベルまでの文法内容、語彙を確実に身につける」としていたことにたいし、まず使用した教材に掲載されたカエサル、キケロ、ホラティウス、カトullusなどの古典作家たちの文章を（抜粋・翻案版ながら）順番に読んで行くことで、あるていど実際のラテン語の原文テキストに親しむことができたと考え。また、各文章において習得課題とされている文法内容について、毎回復習も兼ねた説明と例文の提示をすることで、文法項目の確認もできたと考え。また、毎回一つの読み物を読み終わるごとにそこに登場した基礎単語の一覧プリントを配布し、定期的に確認の小テスト（とは称しなかったけれども）を行なうことで、一定程度の語彙の習得もできたことと考える。

②アンケートでは回答数が少ないながら、全体として特別数値が低い点はないように思われた。

③次クォーター以降に向けた課題として、採用した教材に掲載されたテキストの難易度の問題を考慮しなければならないと考える。また、文法項目の復習として初級・中級レベルのすべてを網羅するまでには行かなかったことについて、もっと計画的に考案すべきかと考える。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ギリシャ語II講読<全>
授業コード 11K04-001
教員名 KUCICKI, Janusz
教員コード 101877
登録人数 13
回答数 6
回答率 46.2%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

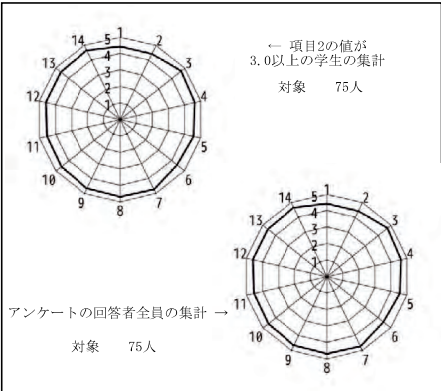


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」の結果によると、「ギリシャ語II講読」は全般的に良い評価を得た科目であったと思われます。授業は二回補講を行いました、15回の授業で、最初から最後までシラバスの内容通り進みました。科目の内容については問題がありませんでした。しかし、一つの批判が出ました。それは、授業の時、学生たちがお互いに自分の声をよく聞かせられなかったというものでした。二人組になってテキストを読む場合が多かったので、二人が大きい声を出さなければならず、大変困っていたようです。今後も、同じ問題を起こさないように全学生達は近い席を取ることが必要だと思います。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽A1
授業コード 12A07-001
教員名 RAJCANI, Jakub
教員コード 103281
登録人数 95
回答数 75
回答率 78.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

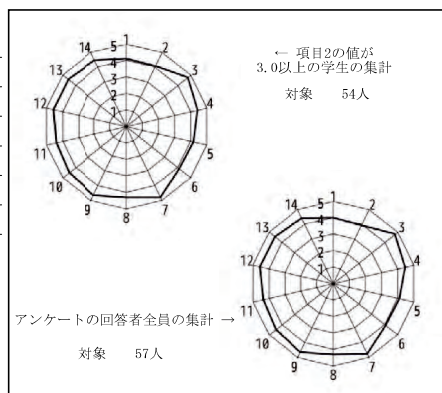


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業の目標は大まかに到達されたと思います。ただ、受講者の人数によって進行の速さが変わってしまい、練習する曲を事前に予定することの難しさも感じました。もっと時間があり、歌うのに熱心な学生がいて、声部のバランスが良ければ、さらに練習できる曲もあったでしょう。とにかく、授業の頂点であった降誕祭を無事に開催することができ、理論的に音楽について学ぶだけではなく、それを実践し実感できることに成功したと思います。
- ② 嬉しいことに、ほとんどの感想が肯定的なものでした。学生が生き生きと関われる授業の大切さを改めて感じさせられました。「周りがうるさい」ことを教員自身も気にしていて、何度となく厳しく注意したつもりです。それぞれの受講者の温度差がその原因でしょう。また、声出しているつもりなのに、出していないように聞こえると言われて嫌な気持ちの学生もいたようですが、それは名指しに指示したわけではなく、その声部全体の音量が小さく、一人が一生懸命歌っていても、あの人数にしては確かに聞こえてこなかったという状況でした。
- ③ 今回は大曲を選んで反省しました。もう少し簡単な歌で、数を増やしても良いかもしれません。ただ簡単過ぎてつまらない曲にならないように気をつけたいです。それから、留学生が取ることが多かったし、将来もこのまま履修するかもしれないので、授業を日本語で行いますが、その理解の困難に関する問題をどうにか考えていきたいと思っています。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教史(現代教会史)
授業コード 21C05-001
教員名 三好 千春
教員コード 101173
登録人数 82
回答数 57
回答率 69.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

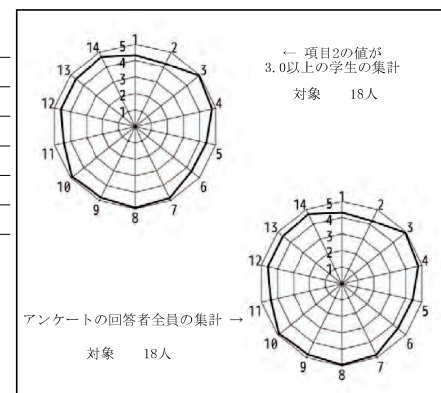
到達目標として、西洋の「近代」がいかにキリスト教に影響したかを理解し、現代の問題を歴史的な視点を持ちつつキリスト教の観点から考えることができるように、ということを書いていました。しかし、学生の評価の中では、到達目標に関する項目の点数が他より低く、なかなか理想と現実の間のギャップを感じ、かつ、自分の力不足を感じています。自分自身が未消化だったり、力が入り過ぎて他の内容との有機的つながりが弱くなった結果、学生の理解を妨げた部分もあったと思う部分もあるので、これらは今後改善する必要があります。

また、キリスト教史は、高校までに学んだ学習内容とリンクしながらもキリスト教の基本的知識がないと分かりにくいところがあり、その辺りの説明の塩梅をどうするかもさらに追及する必要があると考えています。ただ、なるべく学生の質問に答えて、それを更に理解を深めるきっかけとするという努力に対しては、学生が肯定的なコメントをいくつも寄せてくれており、少なくともその姿勢は評価されたと受け止めています。

まだ講義の組み立て方には工夫の余地があり、もっと考えさせる講義を目指して、内容を見直し日本キリスト教史との関連性ももう少し入れた形で、講義を改善していきたいと思っています。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 聖書解釈史
授業コード 21C11-001
教員名 HERA, Marianus Pale
教員コード 102689
登録人数 21
回答数 18
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、今回は登録した学生のほぼ全員（最初から欠席した1名以外）が授業評価を行ったことは、前回この授業が評価対象となった時と比べれば、実施方法に改善がみられたと言えます。また、学生もネット上での授業評価に慣れてきていると思います。

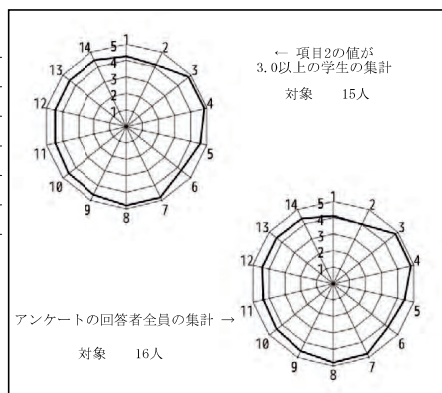
授業内容について、本授業は聖書についての基礎知識を持っていることが前提となっています。今回登録したほとんどの学生は『聖書入門』や『聖書時代史』の科目を受講済みなもので、比較的にやりやすかったです。

授業評価の結果から、如何にして学生が授業到達目標を理解し、興味を持って主体的に学べるように授業を工夫するのが課題として改めて感じました。比較的に小人数クラスなので、これからもグループディスカッションなど参加型授業をもっと積極的に取り入れていきたいと思っています。

授業評価から全体的に学生は満足していますが、次年度に向けて授業内容を更に充実させるために努力していきたいと考えています。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教史I
授業コード 21C57-001
教員名 奥山 倫明
教員コード 019133
登録人数 30
回答数 16
回答率 53.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

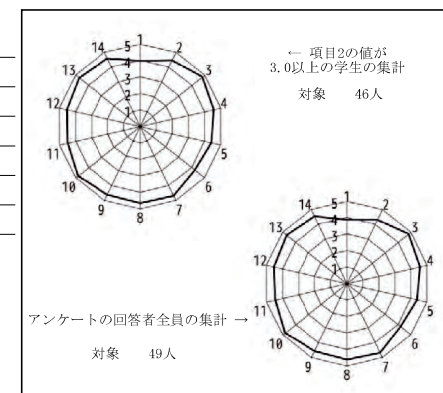


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①世界文明史のなかにおける宗教の役割について理解する、歴史における宗教の展開について理解する、英語文献を読解し内容を把握する、という到達目標を設定し、授業を実施した。特に、(日本の大学生対象の英文テキストではない)一般の洋書を用いての読解を通じた宗教史理解をめざすということであり、意欲的な学生にとっては予習を含め、チャレンジのしがいのある授業になったようである。他方、英語の苦手な学生にとっては、ついてくることもなかなかたいへんだったことと思う。
- ②自由記述の回答は数少ないが、おおむね肯定的な評価を得たように感じる。ただしこうした評価は受講する学生次第で、他学期の「宗教学」ではあまり評判がよくなかったことを記憶している。今回の授業では、リアクションペーパーなどを見ても、せっかく英語を勉強して南山大学に入学してきたのだから、そうした英語力の維持あるいは向上の機会になったものと捉えてくれる学生がいくらかいたようである。個人的には、人文学部の授業において、英語の講読、要約、ディスカッションなどの授業が、体系的に設定されることが望ましいのではないかという印象を受けている。
- ③本学での授業はこれが最後であり、学生の学力向上にたいした貢献ができたわけではないが、授業の仕方等については毎年、試行錯誤をすることができたことに感謝している。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]3
授業コード 10A01-020
教員名 ANTONY SUSAIRAJ
教員コード 103820
登録人数 56
回答数 49
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

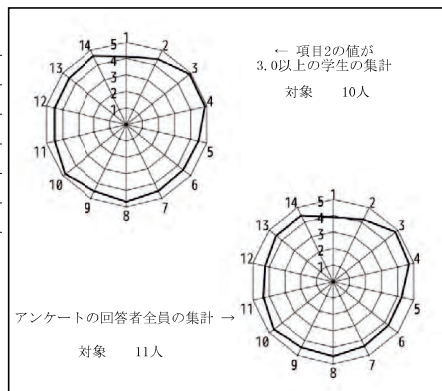


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goal of the lectures on the course 'Studies in Religion' is to understand various aspects of different religions in the world.
2. 4/5
3. In the next semester, I would like to give an assignment to visit various places of religions such as Buddhist Temples, Shirines, Churches that they have a first hand experience.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学・倫理学における人間の尊厳2
授業コード 10D02-002
教員名 谷口 佳津宏
教員コード 016550
登録人数 20
回答数 11
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

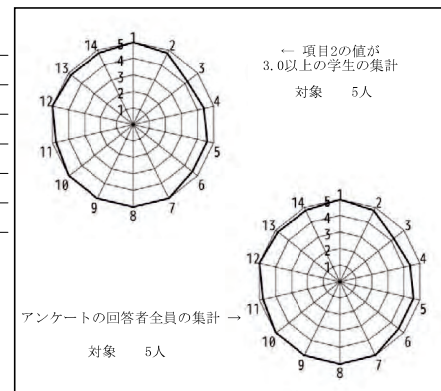


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1. 南山大学の理念を第三者に説明することができる。2. ニーチェの思想の概要を理解している。3. サルトルの思想の概要を理解している。4. 哲学書のある程度読みこなすことができる。」であった。成績評価からすれば、これらの目標はおおよそ達成できたと思われる。数値データもこれまでと比較すれば、数値があがってはいるが、これは、回答数が比較的少なかったことも関係していると思われるので手放しでは喜べない。自由記述のうち、よかった点としては「必要以上に難しい言葉は使わず、授業テーマの日常的な理解と照らし合わせたり、具体例を用いて説明されていたのでわかりやすかった。」という意見などがあつた。一方、改善すべき点として「生徒に何かを問うときに、否定的な意見が少し多かったと思うので、それを改善すると良いと思いました」と書いてくれた者もいたが、これには虚をつかれる思いがした。今後は、問いかける相手は「学生」ではなく「生徒」なのだというのを忘れないよう心がけたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史B2
授業コード 12B04-002
教員名 青山 幹哉
教員コード 019323
登録人数 17
回答数 5
回答率 29.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

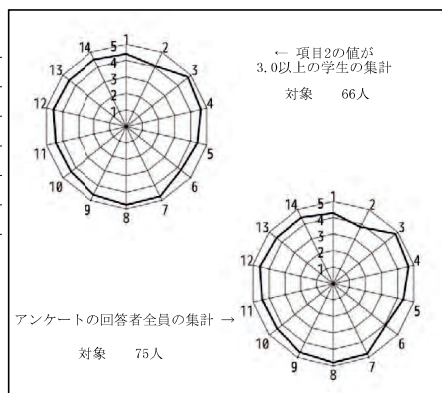


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定した到達目標は、(1)日本古代史についての基本的な知識が習得できる (2)日本古代社会のもつ歴史的特質が理解できる、であった。項目5・6の平均評価値はともに4.60、最終成績評価でB以上が受験者数の73.3%となったので、学力到達度としてはほぼ目標に届いたと言える。
- ② この科目は、2017年度Q4学期における学生評価の対象であった。比較可能な項目について今回の回答平均値と比較したところ、今回は項目3が下がったのみで、他の項目はすべて上がった。ただし、今回は回答数が少なく、統計的にはあまり意味があるのか疑問が残る。
- ③ 今期は、2コマ連続授業の利点を生かし、連続コマの終わり毎にその時の授業内容を問う小テストを行い、次回授業冒頭でその解説を行った。それについて「小テストの難易度が高すぎる」との批判的意見もあったが、「時代の流れがつかみやすかった」との意見もあり、受講生の理解を深めるためには有効であると考えている。教員の作業量が相当程度、増加するという難点はあるものの、次期も小テストの実施を考えている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学B
授業コード 12B14-001
教員名 坂井 信三
教員コード 034264
登録人数 129
回答数 75
回答率 58.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



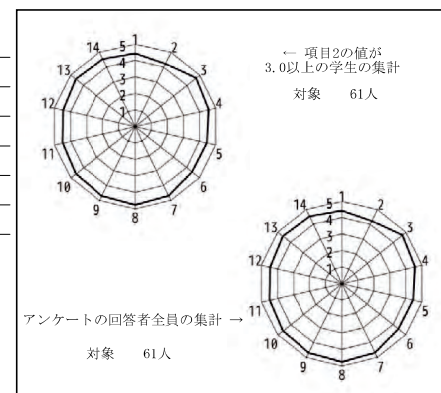
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今学期の文化人類学Bのクラスは約130人の登録者があった。あまり多すぎず、やりやすい規模だった。出席は取らなかったが、欠席はそれほど多くなく、毎回、70～80人程度が出席していた。毎回、授業の最後にリアクションペーパーによって質問、意見を求めたが、多い時で40人程度、少なくとも30人近くの学生がリアクションペーパーを提出してくれた。それにもとづいて次の回到答の時間を取って説明することができたので、理解度を高めることができたと思う。授業評価の理解度4.65という数値を得ている。リアクションの中には大変面白い意見やコメントもあり、私にとっても有益だった。その他、授業の進め方や理解の程度、満足度についても、4.5前後の高い数値が出ている。授業評価の自由記述を見ると、とくに資料のプリントの分かりやすさ、動画や画像、写真の使用、それに授業中の質疑、応答が効果的だったという評価が複数あった。

私は今年度で定年退職であり、これが最後の講義形式の授業だったが、私にとっても、楽しく、教えがいのあるクラスだった。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い2
授業コード 13B01-002
教員名 藤川 美代子
教員コード 103115
登録人数 198
回答数 61
回答率 30.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

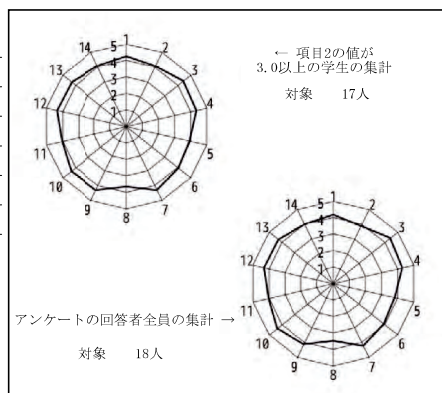
①開講当初、「自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること。日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につけること」という到達目標を掲げた。受講後の学生の感想には、「身近な事例を取り上げることで社会問題を理解することができた。自分なりに日本の現実を理解することができた」といったものがあり、目標は概ね達成されたものとする。

②授業評価の各設問に対しては4.23-4.77と比較的好意的な評価が寄せられており、授業運営は順調に運んだものと理解している。自由回答には映像資料を用いることが学生の理解を深めるのに大いに役立ったことが現れている。このことは毎回記述を求めるリアクションペーパーからもよくうかがえ、映像を観ることで普段は考えないような「自分と他者の境界」について深く考えるきっかけになっているようである。

③一方で、出席の管理が徹底できていない点に学生から批判が出された。受講者数の多さに鑑みてすべての出席を厳密に管理することは困難が予想されるが、対策を講じたい。日本が抱える社会問題について、より卑近かつ新たな事例を取り上げながら理解を深める工夫をしたいと考える。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報6
授業コード 13E05-006
教員名 横山 輝雄
教員コード 015149
登録人数 26
回答数 18
回答率 69.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

項目5（到達目標の理解）が、4. 1 3であり、項目6（到達目標にむけての力の獲得）が、4. 0 0であった。一応の達成はあるが、理解に比べて、獲得がやや低くなっている。

2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

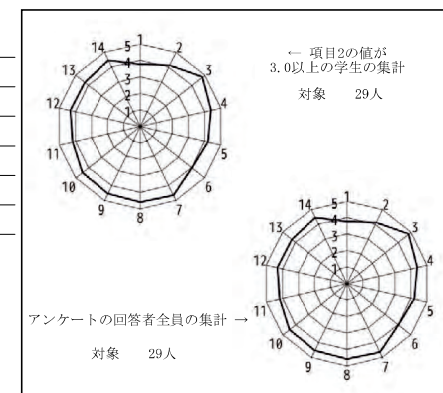
項目1から14の平均点が4. 1 0、項目3－14の平均点が4. 0 9であった。3点台が5項目あった。これらを4点台にあげることが今後の目標である。自由記述では、授業に学生相互の討論を組み入れたことについて、「実際にクリティカルシンキングを用いたディベートを行ったこと」「他人と話し合うこと」などを評価する記述が複数あった。

3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

学生相互の討論が評価されたので、今後もそれを継続し、3点台であった5項目の向上をめざす。とりわけ、予習・復習をきちんと指示することなどにつとめたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス演習II1
授業コード 15P13-001
教員名 浅石 卓真
教員コード 103263
登録人数 39
回答数 29
回答率 74.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本演習では「1. 図書館の参考図書を用いてレファレンス質問に回答できる」「2. 特定のテーマに関するパスマインダーを作成できる」「3. 図書館の企画・イベントを実演できる」の3つを目標に挙げた。それぞれに対応したレポートを採点する限り、いずれの目標も概ね達成できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

総合的な授業満足度は4.45であり、ほとんどの受講生に満足のいくものであったと考えている。また、自由記述では演習内で資料作成の時間を多く取ったこと、レジュメを冊子形態にしたことなどが評価されている。総じて、受講生に「力がついた」ことを実感させることができたと考えている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

受講生からは、発表資料の参考にできる例が少ないとの指摘があったので、前年度の学生の発表作品やサンプルを提示することを検討したい。また、「グループによってはプレゼンテーション時間が超過してしまう」との指摘に対しては、次年度からは各グループにストップウォッチを渡して時間管理を促すことで対応したい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学基礎演習ID
授業コード 22A04-001
教員名 上峯 篤史
教員コード 104108
登録人数 24
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、人文学の諸領域を学ぶための基礎となる知識や技法を習得することを目指した演習で、①基礎的な文献の読み方が身についていること、②発表の仕方、討論の仕方、レポートの書き方が身についていること、③図書館で文献を検索する方法が身についていることを具体的な到達目標として設定された。

本クォーターの授業では、『考古学—その方法と現状—』（放送大学教育振興会、2009年）を教材とし、これの輪読を授業の軸とした。受講生を4班に編成したうえで班ごとに担当する章をきめ、担当班に授業担当者が適宜問いかけていく方式をとった。

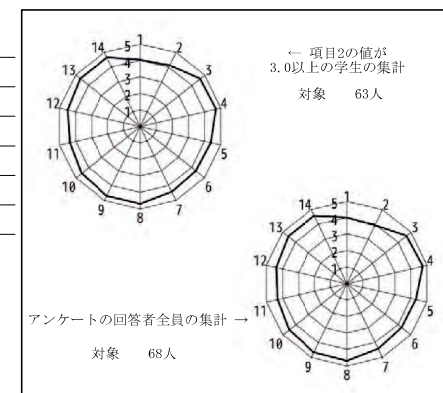
受講生の参加度は概ね良好で、クラスの大半が一度も欠席しなかった。授業担当者からの問いかけに対する反応も、回を重ねるごとに具体的になる、自分の言葉で答えるようになるなど、受講生の成長もうかがうことができた。

期末課題としては、考古学に関する英文エッセイ集の和訳を、個々人に担当させるものとした。課題に取り組むにあたって、日本語表現に関する入門書を読んでもらい、その内容をふまえて「わかりやすい表現で」和訳することを課題とした。受講生の取り組みは良好で、単なる逐語訳ではなく、日本語として意味の通る翻訳文を提出したものが多かった。

発表や討論の方法、図書館の利用法については、別クォーターの同演習であついているために本クォーターではあつかわなかったが、3年生以上でも図書館の使用法が不案内な場合があるなど、導入時教育時点での不足点も見受けられる。担当者間で情報共有をしつつ、基礎知識・技法の漏れのない教示に努めたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学基礎論B
授業コード 22A06-001
教員名 中尾 央
教員コード 102505
登録人数 155
回答数 68
回答率 43.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

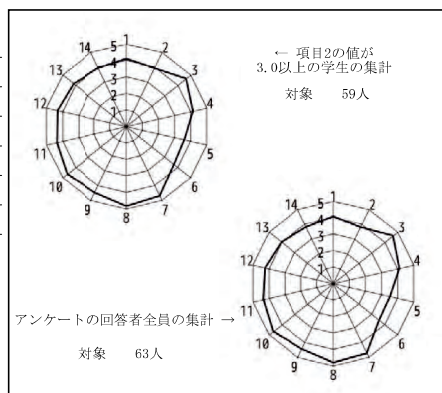


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標として以下二つを挙げた。
・人類文化に対する多様なアプローチを理解している。
・人類文化に対する様々なアプローチを比較し、それぞれの長短所を考察できる。
設問項目5、6の点数が4点を超えていることから判断して、概ねこの目標は達成できたと感じている。自由記述の内容でもこの点に関して否定的な記述は見られない。が、1名だけ評価に1点をつけている学生がいるので、今後気をつけたいと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値は概ねすべて4を超えていること、また自由記述で否定的なコメントがほぼなかったことから考えて、授業全体としてはそこまで悪いものではなかったのだろうと考えている。項目1、2の点数が低めな点については、今後シラバスの書き方を考えなければならないかもしれないと感じている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
質問への返答時間が短いとの記述があったので、次年度以降はこの点を改善したい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語学概論
授業コード 22B01-001
教員名 青柳 宏
教員コード 017004
登録人数 90
回答数 63
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標について

今Qは次の2つの目標を掲げた。

1. 日本語や英語といった身近な言語だけでなく、他のさまざまな特徴を持った言語があることが理解できる。
2. 世界の言語には多様性があるばかりか、普遍性があることが理解できる。学期中にテーマごとに実施した小テストやフィードバック、期末テストの結果（平均点58.6/100, SD24.5）をみるかぎり、到達度には履修生により大きな差がみられる。

②総合的な自己点検・評価

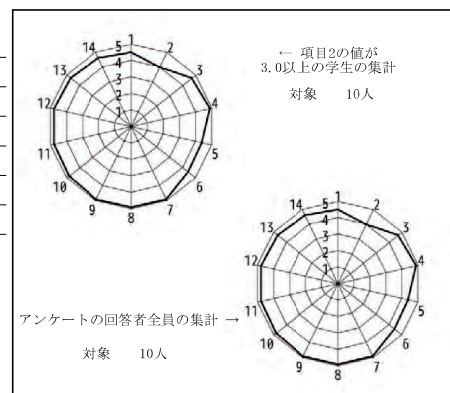
回答者数は63/90で授業中に回答のための時間を取った割には回答率はあまり高くない。項目4～15の平均は4.24であり、例年どおりであった。自由記述のうち、肯定的なものは、「担当者の熱意が伝わる」「担当者のプレゼン力が高い」「毎回の冒頭に前回のまとめがあったのがよかった」「質問の機会が豊富だった」などであり、否定的なものは、「授業の進行が早すぎる」「板書でみづらい文字があった」「よく分かっている人だけを対象に話をしているように感じた」などであった。特に、「質問の機会が豊富」と「よく分かっている人だけを～」は同一人の記述である。また、テーマごとに質問欄を含めたフィードバック・ログを提出させていたにもかかわらず、「質問用紙を受け付けるなど適切な配慮がなされていなかった」などという記述もあった。学生による授業評価と期末テストの成績を紐付けたデータがほしいところだが、いわゆる中間層に動機づけをする工夫は今後必要だろうと思う。

③今後の改善点など

中間層に動機づけを与える工夫が必要である。
授業の双方向性を高める工夫が必要である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 古代哲学史II
授業コード 22C26-001
教員名 坂下 浩司
教員コード 100471
登録人数 20
回答数 10
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

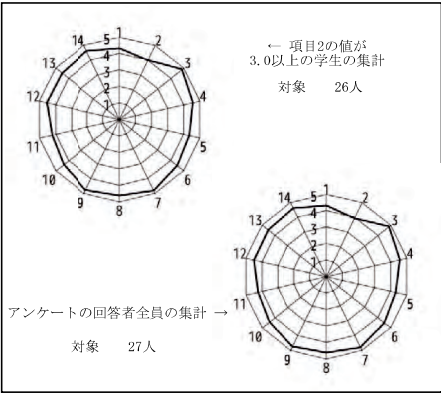


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度は、「エレア学派以降のギリシア哲学を理解している」であった。授業毎に書いてもらっていた「コミュニケーション・ペーパー」での記述の内容や感想の熱心さを見ても、今回のアンケートの回答の平均値がすべて「4」以上であったことから、到達の程度は高かったと思われる。自由記述は、肯定的なものとしては、「普段絶対触れることのない（レプリカとはいえ〔実際はオリジナルも使用した〕）に触れ、スケッチを通して深く観察出来る機会を与えてもらえたのは貴重」、「映像や古代の絵〔壺絵や皿絵の図版のこと〕やコインのトレースなどをして、視覚的にも体験できた」というものがあった。文字資料だけではなく、古代のコインのオリジナルやレプリカ、壺絵や神殿の写真などから、古代ギリシア人の日常と考えを理解するという工夫がうまく機能していることがうかがえる。この点は今後も継続していきたい。「先生が理解があり、分野に詳しく、生徒も関心が持てるようにしてくれた」は、おそらく、個別に読書案内をしたことがうまくいったのだと思われる。否定的なものとしては、「〔ソクラテス以前の哲学者の〕断片の理解が難しすぎた」というものがあった。具体的には、パルメニデスの断片を詳しく取り上げたのだが、どうやっても難しい内容であり、哲学の文書の原理的な難しさを体験してほしいということもあった。今後の課題としたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化史A
授業コード	22C41-001
教員名	渡部 森哉
教員コード	101237
登録人数	76
回答数	27
回答率	35.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバス通りに授業を行った。受講者が毎回提出したコメント用紙の記述内容、小レポートの内容、期末レポートの内容、授業評価のアンケート結果をふまえると、目標は概ね達成されたと考えられる。
- ②数値データを見ると、項目2（予習・復習を行ったか）の数値が低い。講義形式なので毎回の予習副有は必要ではないが、授業の内容を活かした小レポート、期末レポートを書かせる工夫を考えたい。自由記述については4名が好意的な感想を記載している。「1話完結の講義なので、いつも新しい話が聞けるのが面白い」「授業がわかりやすく、レジュメも見やすくよかった」「雰囲気落ち着いて好き」という意見があった。今後の継続していきたい。一方、改善点については1名が「ひたすら先生の話聞くので集中力が持たないことがあった」と記載している。受講生に質問を投げかけるなど、より興味を持ってもらう方法を考えたい。
- ③今回、最後の補講の授業の際にアンケートのアナウンスをしたため、回答率が低かった。次回以降、補講をする場合は、アンケートの実施日から外すようにしたい。講義内容を改善するだけでなく、学生の意欲を引き出す授業の運営を心がけたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(英米哲学)
授業コード	22C66-001
教員名	和泉 悠
教員コード	103645
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

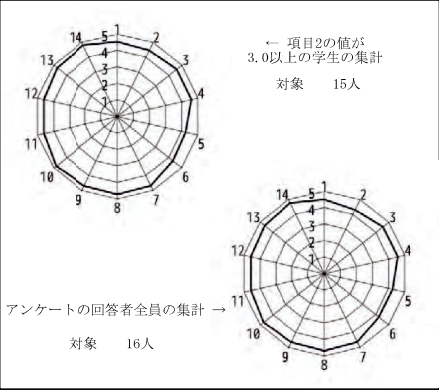
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①到達目標の項目は3つあり、「1. 言語にまつわる哲学的問題（のいくつか）についてきちんと議論できる」については、提出されたレポート課題を評価する限り、全員十分に到達できたと思う。2つめの「2. 自分の意見をきちんと根拠を挙げて、論理的に述べることができる」についても、同様に全員十分に到達できたと思う。3つめの「3. 相手の意見をよく聞き、その内容と根拠を理解することができる」の部分は、授業中での口頭での議論にかかる時間が十分に確保できたとは言えないため、部分的に到達できたと思う。自分の意見を陳述する機会（レポート、クラス内での記述課題、口頭での発言）を設けることができたが、それを理解できたかどうか例えば対話をさせて確認する、というような時間を設けていないからである。
- ②十分な量の数値データが存在しないようである。
- ③今学期は短いレポート課題を複数課すことにより、いわゆる中だるみすることなく、コンスタントに授業への参加を促すことができた。類似の課題設定を続けていく。ただ、①を踏まえると、より学生同士が意見を交換する機会を設けるべきだと思う。口頭での議論を促すことは難しいため、課題のピアレビューを行うことにより、WebClass上で意見交換させることなどを考える。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(縄紋文化論)
授業コード	22C71-001
教員名	大塚 達朗
教員コード	019372
登録人数	30
回答数	16
回答率	53.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

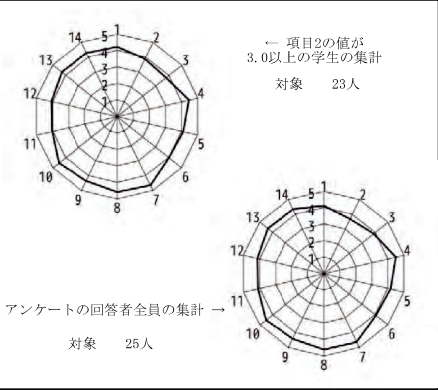


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標はおおむね達成できたと考える。掲げた業目標は、縄紋土器の変遷には共通目標がないことから、一体性のない多様な土器文化が日本列島の先史時代に1万年以上にわたって展開したことの意義と、その長期におよぶ有土器文化多文化状況はドングリなどの植物質食糧資源の多様な開発利用に由来することを修得させる、の二点であった。授業評価は、集計表によれば、全体では項目1から14の平均が4.39、項目3から14の平均が4.43で、本授業はそれぞれ、4.54、4.57である。また、全体的な評価を問う設問（13・14）をみると、全体ではそれぞれ4.40、4.36で、本授業はそれぞれ4.63、4.75である。故に、高く評価されたといえよう。自由記述をみると、人類学博物館で土器を手にとつての講義を評価するする記述が4本あった一方で、ホワイトボード上の板書が見づらかった旨の記述が1本あった。博物館での土器観察にかかわる方策をより細かく、しかも口頭での解説し、あわせて、質疑応答の回数を増やすべきであったと考える。ともあれ、人類学博物館所蔵縄紋土器資料を最大限利用しながら、知識が抽象的にならないように、かつ、考古学の分析方針の特色を理解させるように心がけつつ、更新世にいち早く日本列島に土器が出現したことの世界的な意義について、考古学からより正確な歴史認識を修得させる本講義を有意であった、といえるであろう。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(中国的世界の形成)
授業コード	22C72-001
教員名	西江 清高
教員コード	019356
登録人数	44
回答数	25
回答率	56.8%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

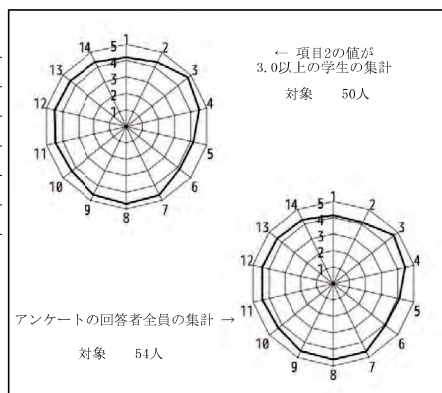


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の開講当初の目標と到達度の程度に関連しては、学生への質問項目13、14など、最終的な満足度に関する評価値が、全学の平均値に近いものであった。その結果はおおむね良好であったともいえる。しかし本講義の内容は「特殊講義」として「文明の形成」に関する担当者自身の新しい視点の提供であり、それによって学生から新鮮な興味関心を引き出すことであった。その点からすると、学生による満足度はかならずしも期待した結果ではなかったと感じている。講義内容そのものをさらに磨く必要があろう。評価項目中、やや低い評価として注意すべきなのが、「積極的な授業参加や自主的な学習」、あるいは「質問や相談の機会が十分」という項目についてである。これらの項目は昨年のこの授業の評価でも高評価が得られていなかった項目である。一方向的になることの多い講義形式の授業であるための結果であろう。しかし、次回の本講義では、授業進行時に小テスト（知識の確認）やスマホを使つての学生自身による情報検索などを実施して、学生の授業への参加意識を高めていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術B2
授業コード 12A06-002
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 105
回答数 54
回答率 51.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

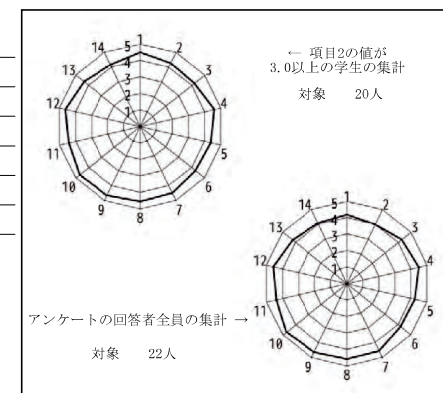
本講義は、全学部対象の共通教育科目（基盤：思想と文化芸術）である。授業の達成目標については、「1. 歴史的時代背景や社会状況を背景にした日本の古代美術作品や中世の水墨画作品などを理解することができること」「2. 日本中世美術における中国水墨画の受容と変容の展開の理解を深めることができること」「3. 鑑賞した作品について、中国の思想の影響や仏教思想の観点から意見を述べるができること」の3つをシラバスで提示した。学生からの達成目標に対する理解について（設問5）の評価平均値は4.06という評価で全体の平均値と比較すると低い。そして、到達目標に向けての力（設問6 平均値4.06）もあまり向上していない。到達目標の理解はできていたが、その知識が増えたという実感を伴わなかった学生も多くいたということだろう。

一方で、教員の理解度に対する配慮について（設問9 平均値4.56）は、評価が割合に高い。おそらく、私自身が挑戦した工夫を学生が肯定的に評価してくれたことと理解している。毎回、前回のふり返りを行ったり、インターネットサイトで作品を紹介したりするなどした。設問15のコメントも「サイトやYouTubeの紹介」「美術の視覚的な説明」などに評価があった。一方で、前回のふり返りの時間が長いというコメントもあった。設問16にもあるが、私語に対する注意が不十分と感じる学生もいた。

本講義は今年度から担当しており、多くの作品を紹介したいあまり、上手く時間配分を考えて運営することができなかつたと反省する。そのことが、学生の達成度にも影響があったのではないかと推測する。そのため、改善点として、授業で紹介する情報を選抜し丁寧に説明する一方で、時間配分に留意しながら授業運営をしていくようにしたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A2
授業コード 12E03-002
教員名 浦上 昌則
教員コード 018788
登録人数 60
回答数 22
回答率 36.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、認知心理学、学習心理学および発達心理学をあつかう概論科目である。そのため各領域内の多様な基礎的事項を広く紹介した。各領域の概要を理解し、基礎的事項を説明でき、また生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができるようになることを目的としている。

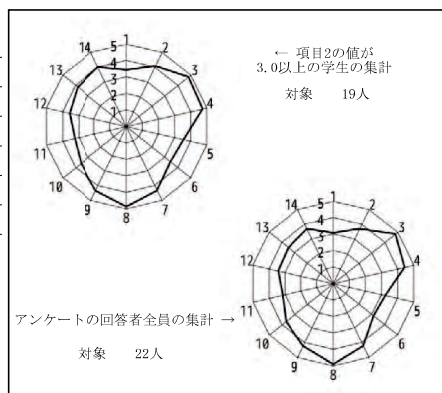
授業評価の回答は、平均値が概ね4点台であり、好意的な評価を得られたと考える。授業の特徴としては、途中に小休止をはさむこと、授業終わりに書いてもらう学生からの質問に回答する時間を次の回にとることである。これらに関しては、「途中で休憩があった点」「リアクションペーパーで質問できること」「質問に答えてくださること」などのコメントがあった。ただし、質問に対する回答について「フィードバックが長い点」を課題として指摘する声もあった。内容の繰り返しにもなるフィードバックであるが、この授業で重要視しているポイントでもあるため、以後も短くはせず、その理由を積極的に伝えていきたい。

なおこの科目については、2018年度には、特にこれまでと何かを変えたわけではないにもかかわらず、評価項目の値が従来よりもやや高くなった。肯定的にすぎるようにも思われたが、本年度では例年並の値となった。その年度の受講生における、何らかの特徴が評価に影響しているのかもしれない。

なお今回は当方の不注意で、授業時間内に授業評価の時間を確保しなかった。他の方法で協力を要請したが、受講生にはお詫びを、協力者には感謝を伝えたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境2
授業コード 13D02-002
教員名 林 雅代
教員コード 018796
登録人数 34
回答数 22
回答率 64.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

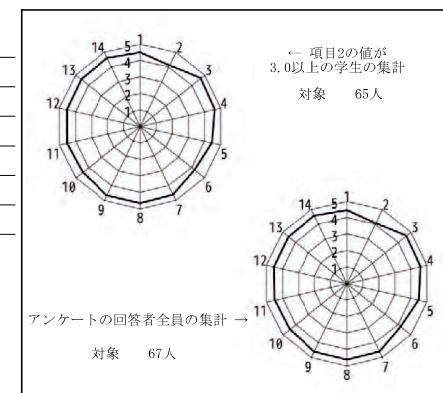


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、Q3に開講している科目と同じ内容で実施している。Q3と比べてQ4の方は受講者数がかかなり少なかったが、授業態度の良い真面目な学生が多く、出席率も高いという印象であった。実際、設問2の受講態度の自己評価の得点は、3.68と、かなり高くなっている。そのおかげで、授業運営は非常にスムーズであり、私語等について注意するといったことはほぼ皆無であったのだが、受講態度への注意に関する項目10の得点が3.68とこれも高くなっているのは、どのように解釈すべきか悩ましいところである。これらを含めて、すべての質問項目で3以上となっており、一定の水準で授業が実施できたと考えているが、相対的に評価が低かった項目としては、到達目標に関する項目5および項目6、自主的な学習の促進に関する項目11であった。今学期は休講があったために、授業評価の実施は、授業のまとめを行う最終回ではなく、第14回目に行うことになったが、到達目標に関しては、授業評価実施の際に到達目標を提示する必要があったように思う。次回の授業評価実施時には、到達目標の提示は気をつけて行いたい。また、自主的な学習の促進は継続的な課題であるが、授業内容を学生にとって身近なトピックや時事的話題と関連させることで、ニュースを見たりするという行動を促すという程度の働きかけは、まず行うことができるのではないと思われる。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 こころとは2
授業コード 13E01-002
教員名 解良 優基
教員コード 103910
登録人数 140
回答数 67
回答率 47.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

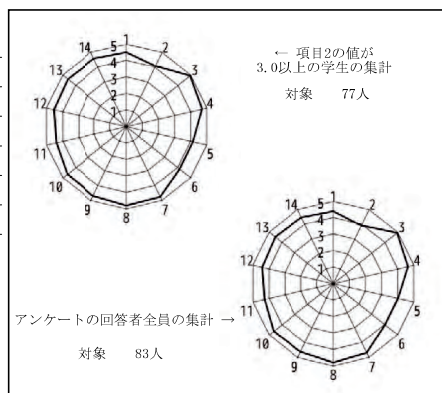
今回は時間管理がうまくいかず、最終回の授業にあまり時間的余裕が取れなかったにもかかわらず授業評価にご協力いただいた学生さんへはじめに感謝を申し上げます。

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本授業は、以下の2点を目標として設定していた。
・習得した心理学の基礎知識について説明することができる。
・学習した知識や心理学的視点から、日常的問題について考えることができる。
定期試験の結果、昨年度よりも全体的に得点が高まり、基準に未到達だった割合も低まった。また、毎回の出席確認としても用いていたwebclass上での小課題（授業内容と日常生活を繋げて考えるような設問が多かった）にも多くの学生が真剣に回答していた。
これらの結果から、上記の目標は概ね到達できたものと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
アンケートの量的データからは、全体的に本授業に対する肯定的な回答傾向が見て取れた。
したがって、少なくともアンケートへの協力者に限って言えば、授業に対する大きな不満や強い改善要望はなかったものと推察される。
自由記述の結果からは、視聴覚教材や簡単な心理検査（質問紙等への回答を通じた自己理解）の実施などが興味を惹いたという記述があったため、来年度以降の授業づくりの参考としたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求4
授業コード 13E03-004
教員名 川浦 佐知子
教員コード 055855
登録人数 113
回答数 83
回答率 73.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



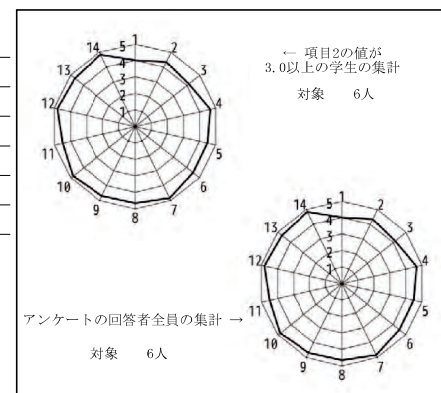
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ビックバン宇宙論にもとづき、宇宙・惑星系・生命の歴史を「進化」をテーマとしたひとつながりの物語として講義した。人文、社会科学系の学生にとっては、ハードルが高いと考えられがちな「宇宙」について知ってもらうため、毎回、映像資料を用いてわかりやすい説明に努めた。授業では冒頭、前の回で収集した学生からのコメントや疑問に応えながら復習をし、その後新しいコンテンツを紹介した。授業に主体的に取り組んだかという設問2の問いに対しては「はい」(27.71%)、「どちらかと言えばはい」(44.58%)という回答で約7割の学生が内容を理解しようと努力しながら講義に臨んでいた。教員は学生の理解度を配慮して板書や資料配布を行うなど、適切に授業進行をしたか、という問9については、「はい」(71.08%)、「どちらかと言えばはい」(20.48%)という回答となっている。授業では講義の進行に合わせた構造化した板書を心がけた。

自由記述欄には、「ビデオや補足プリントで授業内容をより理解することができた。」、「直感的に理解しにくいことを理解させるための工夫が感じられた。」、「講義のスピードが適切でホワイトボードに内容がまとめられたので、わかりやすかった。」、「しっかりと授業に参加している学生には、平常点をミニレポートで付けてくれるので、皆勤を目指す自分にはやりがいがあった。」、「宇宙や生命の神秘に触れられたようでたのしかった。」というコメントが寄せられた。到達目標に関する質問において平均値がやや低いので、次年度以降は目指すべきゴールをより明確に学生に示したい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育の方法・技術論5
授業コード 15A09-005
教員名 藤田 知加子
教員コード 100382
登録人数 8
回答数 6
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

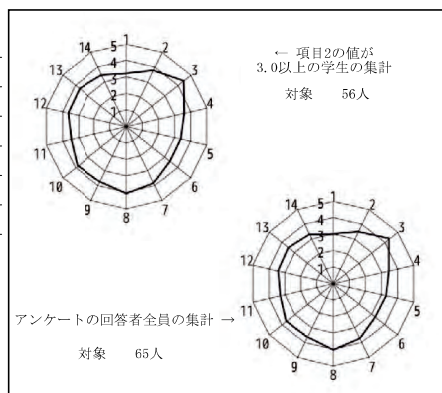
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
最終レポートの達成度から、当初の目標には概ね到達できたと感じている。「前回授業の感想や質問に、毎回先生がコメントをくれるところで、ほかの人の考えであったり、質問がわかって、授業理解につながる。自分の考えも深まるように思う。」という自由記述からもうかがえる通り、考えを深めてほしいという願いはある程度叶えられたように思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
学生評価は少人数の履修であったこともあり、全体的に高い評価であった。また、教職科目ということもあり、受講生の目的意識・意欲が高く、話し合いなどのグループワークへの取り組みにも肯定的な意見が見られた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
現在の授業内容を踏襲し、さらにグループワークなどを取り入れた授業構成を模索していきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育学概論
授業コード 23A02-001
教員名 加藤 隆雄
教員コード 019349
登録人数 126
回答数 65
回答率 51.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



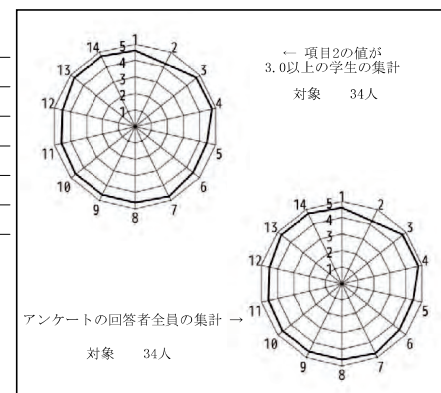
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は1年生の学科必修科目であるのだが、この結果には驚いた。まず、設問1に対して平均が3というのは、本学科がどのような学科であるか理解して入学していない学生が相当数いるということを意味している。個別の集計を見ると、回答者の1/5がこの項目について1を付け、2と合わせると1/3に及んだ。そうした回答者が、全体の平均値を大きく下げており、見たことのない低い平均値となっていた。授業内容については、自由記述「興味が無い」「内容がわからない」など、肯定的とはいえないような評価になっている。興味が無いために、設問5、6、9、11、13、14についても評価は低い。回答率は約半分であり、こちらも授業で時間を取った割には低い数値である。回答者の属性が全体の構造を反映しているとしたら、学科必修科目の位置づけを考え直さなくてはならないように思うが、実際の授業の雰囲気は非常に真面目で熱心に聴講していた学生が多く、また試験の結果も全体的に良好であるので、この授業評価の数値は、敵対的評価者の意向を過度に反映しているとも考えられる。授業に対する意見は、「毎回資料を配布して効率よく授業が行われていた」「実際の資料の画像や、挿絵、絵画などを通して学べるので興味がわく。世界史を高校で選択しなかった人でも分かるように、説明が充実していた」「授業内のスライドをwebclass上で閲覧できるのが復習に役立って良かった」「さまざまな資料を引用して説明されていたため、興味を持って話を聞くことができた。」など、こちらの感触と一致するような肯定的な意見も多かったが、他方、ネットの書き込みまがいの否定的意見も見られ、匿名性を保ったかたちでこのような授業評価を実施することの適切性が問われるようにも思われる。

このような事態が本学年の特徴によるものなのか、あるいは授業への興味を含めた近年の趨勢であるのかは、ここから判断できない。ただ、判断できるようなデータが集まらないシステム、いくら呼び掛けても回収率が上がらないシステムには改善の余地があるのではないだろうか。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 臨床教育学
授業コード 23C12-001
教員名 高橋 亜希子
教員コード 103582
登録人数 71
回答数 34
回答率 47.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

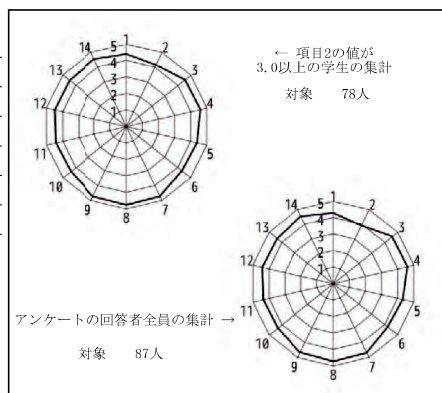


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートへの協力有難うございました。授業研究がテーマの授業のため、映像を見る機会が多いのですが「様々な映像を利用したことで、話だけではなく実際の様子を見ることができ理解を深めることができた」「授業で見せてもらえるビデオが興味深く、面白いものばかりだった。先生自身が取材したものもあり、なかなか見れないものなので貴重なビデオだった。」など、授業の映像について好意的な意見が多く、良かったと思います。また、振り返りやシェアリングの時間についても「他の人と、意見を分かち合う時間が取られていたことが良かったと思います」「ペアの人と話す機会が多くあったため、自分と異なった意見を聞くことができた」と好意的な意見を頂きました。自身で絵本などに問いを立てて授業を行なうことについては、「自分で絵本等を用いて授業を組み立てて発表する」ことへの意義に関する意見があり、意図が伝わってよかったと思います。一点、成人式で発表が困難になった学生の発表について気の毒だという意見がありましたが、15回目に対応する形にしましたので、発表はみな無事終了できました。ただ、成人式との兼ね合いは毎年生じているので、来年度は開講をQ2とする形で対応する予定です。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 発達心理学
授業コード 23C21-001
教員名 西脇 良
教員コード 100623
登録人数 153
回答数 87
回答率 56.9%
休講回数 2 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、①出生前期から老年期までの主要な発達課題、定型／非定型発達に関する基礎的知識を習得していること、②学習内容と自分の成育経験との照合をおこなうなかで、自らの成育史への理解を深めていること、を到達目標としました。

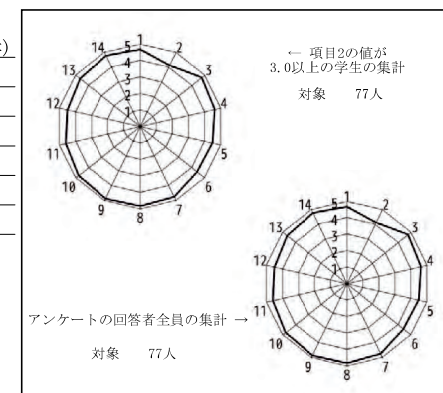
学生の皆さんからの評価ですが、全体としては「まあまあ」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.43）。評価対象科目全体の平均値（4.39）、心理人間学科全体の平均値（4.36）をそれぞれ若干上回っていました。

アンケート用紙の裏に記入されたコメントについてですが、まず肯定的な意見としては、「映像資料が効果的に使われていた。」「進度が早すぎず遅すぎずでちょうど良かったです。」「先生がとても面白くて優しい。」「レジュメがとても丁寧に作り込まれている点。」などのご意見を頂戴いたしました。これからも、丁寧に楽しく授業を進めていきたいと思ひます。

他方、改善すべき点として、「レジュメが手元に欲しいなと思ったときがあった。」「ノートに書くに足らず内容は多くて難しいし、聞いているだけだと眠くなるので、出来れば穴あきプリントなどを配布して下さるとありがたいです。」「テストに出ないはじめの方の範囲に時間をかけて最後駆け足になってしまったので、もう少し最後の方の児童期や発達障害のことにも触れて欲しいかった。」「時々始業が遅れてしまっていた。事前準備をもう少しすると時間通りに始業ができると思ひます。」などのご意見を頂戴いたしました。プリント配付につきましては、ペーパーレス化の流れもありますが、検討して参ります。予定していた単元を消化仕切れなかったことは誠に申し訳なく思ひます。次回はバランス良く運営していきたいと思ひます。始業時間につきましては、教室15分前到着を心がけたいと思ひます。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会心理学(社会・集団・家族心理学)
授業コード 23C60-001
教員名 土屋 耕治
教員コード 102287
登録人数 134
回答数 77
回答率 57.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次以上を対象とした講義科目である。主に、心理人間学科の学生を中心に約130名が受講した。

(1) 目標と到達

本授業では、心理学の視点からの人間理解、ならびに、科学的に現象を考察することを目標としていた。到達目標を振り返る項目（項目6）は、4.42と比較的高いと言え、一定の目標を達成していたと言うことができよう。また、全体に関する満足度に関する項目（項目14）も4.75と高いことから全体としても、評価を得ていたと考えられる。

(2) 総合的な自己点検・評価

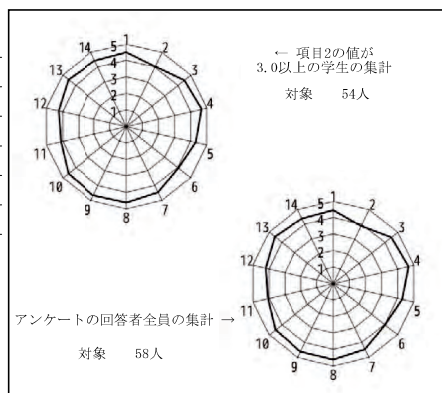
昨年までと同様、WebClassを授業中に活用し、相互に意見や考えを見る機会を設け、VTRを多く活用し、実際に実験のデモを行った。またこれらに加えて、今年度の取り組みとして、公認心理師への対応として内容を追加したこと、また、問題に対する対策について扱う内容を増やした加えたことが挙げられる。自由記述でも、映像資料の多さやデモ実験への参加が効果的であったことが言及されており、効果が高かったと言える。

(3) 改善点

本講義は、広い領域を扱っていることから、内容が少し多く、コメントシートを授業内に書ききることが難しいという意見があった。引き続き、内容を厳選しつつ、学生が熟考する時間と余地を授業内に十分に設けるなど、改善していきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理療法論(心理学的支援法)
授業コード 23C61-001
教員名 楠本 和彦
教員コード 055780
登録人数 88
回答数 58
回答率 65.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は次の目標であった。以下の心理療法(心理学的支援法)の基本的概念について理解している。

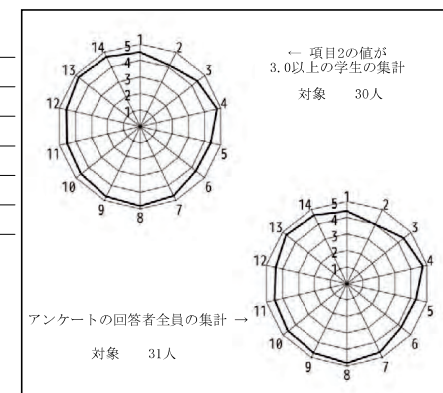
- ① 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
- ② 訪問による支援や地域支援の意義
- ③ 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- ④ プライバシーへの配慮
- ⑤ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- ⑥ 心の健康教育

本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、本授業の結果が下回る場合があった。項目2の場合、予習が必要な授業課題に関して、予習の行うことの必要性を説明しているため、復習を学生があまり行わなかったことが、反映していると推測される。項目11、12に関して、評価が低いのは、学生と教員の双方向的なやりとりを行うことができなかったことが起因していると考えられる。これらの点について、今後、さらに意識して授業運営を行いたい。

全学の平均を0.1ポイント以上、上回っている設問は1、4、8、9、13であった。これらの項目は、学生の授業への興味、授業の構成・進度、授業運営、新しい知識の獲得に関することであり、それらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。今後とも、授業内容や運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学をめぐって1
授業コード 13A05-001
教員名 森田 貴之
教員コード 102286
登録人数 61
回答数 31
回答率 50.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

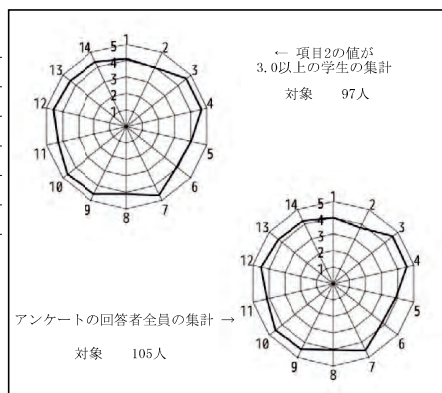


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が4.39であるのに対して、設問14の満足度が4.61であり、当初の講義目標はだいたいにおいて達成されたと考えている。調査対象科目は、共通教育科目の学際科目の一つであり、愛知県にまつわる様々な古典文学をとりあげ地域との関係などを取り上げるものであるが、共通教育の特性上、おもに他ジャンルを学ぶ学部学科の学生にはあまりなじみがないと思われる資料を扱っており、一部はやや専門性の高い内容となっていた。そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。設問4の毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたかという問も4.71であり、また、設問9の教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか、という問も4.68であった。次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が30と半数程度にとどまり、授業時間においてきちんと回答時間を設け、回答を呼びかけたが、それでも回答率は向上しなかった。今後の課題である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い3
授業コード 13B01-003
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 183
回答数 105
回答率 57.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業のシラバスに掲げた到達目標は

- 1 前近代の日本の社会や文化のあり方を考える糸口をつかんでいる。
- 2 日本人の外来文化の受け入れ方について考える能力をつけている。
- 3 異文化の受容について考えるきっかけをつかんでいる。

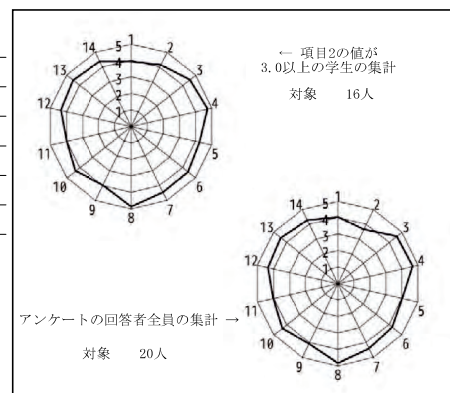
というものであった。学生の所属学科の専門分野の知識や理論を教えるわけではない所謂教養科目は、目標が抽象的なものとならざるをえず、到達目標についての理解、到達目標の達成度の自覚が低くなりがちなのはある程度やむをえないと考えているが、到達目標に関わるアンケート項目、5と6が低いことは問題がないわけではなく、今後その丁寧な説明が必要となろう。

その他では、学生の主体性を問うアンケート項目2が4.0を下回っている。自由記述の中には一方的な講義であることへの批判も一件あり、大人数講義の中で学生に主体的に授業に関わらせるにはどうすればよいかを模索していきたい。

以上の3項目以外では数値はすべて4.0を上回っており、学生から一定の評価は受けたものと思われるが、改善の余地がある数値でもある。より学生の興味の引けるよう、工夫に努めたい。自由記述欄でもおおむねプラスの評価を書いてくれる学生が多かったが、事実の羅列に傾きがちで、理論的な部分に欠けていた旨の批判もあったので、それを貴重な批判として捉え、今後に生かしたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは4
授業コード 13E02-004
教員名 稲山 洋介
教員コード 041806
登録人数 28
回答数 20
回答率 71.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

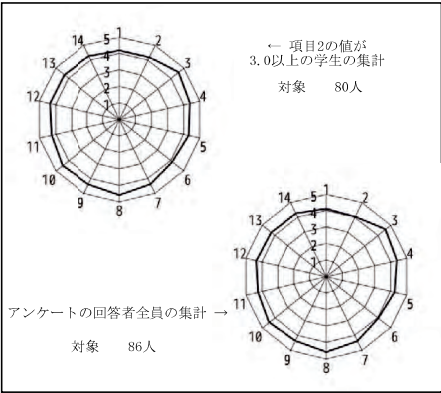


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、試験（1回）、レポート（1回）、毎時間提出を求めた質問・感想シート、学生による授業評価から総合的に判断して、当初設定した目標が十分に達成できた受講者が約40%、目標が相当程度達成できた受講者が約30%、目標をある程度達成できた受講者（授業を通して何かを身に付けた人）が約25%であったのに対して、目標を達成できなかった人（授業を通して何も身に付かなかった人）は約5%であった。自由記述として「コメントペーパーに書いた質問に授業毎に回答をしてもらえた」とあった。今後も質問に丁寧に対応していきたい。また、「わかりやすい例を取り上げて授業をしてくださった」という回答もあった。学生の理解を促す具体例を今後も工夫していきたい。さらに、「復習のポイントのレジュメがもらえたので、なんとかテストはやれた」という意見もあった。授業の内容を網羅的に身に付ける手助けとなる教材を今後も工夫していきたい。一方、「話がわかりづらい」というコメントもあった。今回のように、多様な学部（学部）の学生が受講しており、取り組み・能力などに差がある場合、今後、遅れがちな学生に特に目を配り、授業終了後などに気軽に質問できる場を設けるなどの対応をしていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報4
授業コード 13E05-004
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 299
回答数 86
回答率 28.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

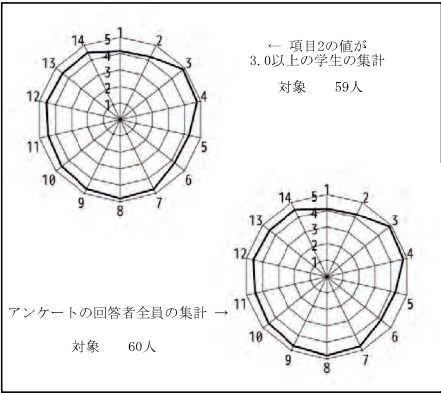


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達は、概ね達成できたと思う。今年度から、授業時間内に課題を提示して自分の見解や意見を書いてもらったうえで、5分程度隣の受講生とディスカッションしてもらい、ディスカッションをふまえて個人でさらに見解をまとめ、その内容を数人に口頭で発表してもらう機会を幾度か設けた。この点については、他の人の考えを知る事ができた、考えが深まった、当てられることがあるのでみんなきちんと考えようとして良かったと思う、など複数の人から肯定的な自由回答が寄せられた。改善すべき点として、ディスカッションの機会が後半減ったことが残念だったとの意見があったので、次年度はこうした場をもっと増やしていく予定である。一方で、到達目標に向けて力がついてきていると思うかとの問いは平均値が低かった。自由記述のなかで、難しい内容の時はもっと詳しく話してほしかったとの意見があったので、聞きなれない用語や事項については、説明をより詳細に行いたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の多様性2
授業コード 20A10-002
教員名 平子 達也
教員コード 104112
登録人数 96
回答数 60
回答率 62.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

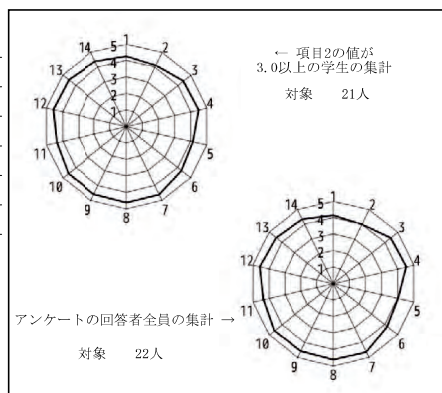
学生が「ことばの多様性を捉える視点として、様々な視点があることを理解している」とこと「言語地理学・比較言語学・社会言語学・言語類型論の視点から捉えた日本語の多様性について、具体例を交えて説明することができる」ことを当初の目標としていた。これらの目標の到達の程度を測るために、授業内容の予復習を兼ねたWebClass上でのクイズを計8回、また「言語の消滅についての自分の考えを言語の多様性と関連づけて述べる」というレポートを課した。クイズの得点率からは、特に1つめの目標については達成している学生が多いと判断できた。一方、レポートの記述内容からは、2つめの目標である「日本語の多様性について、具体例を交えて説明することができる」ようになっていたとは言えない。

数値データは概ね平均値程度であったが、回答率が60%程度であることや日頃の授業態度を考えても、潜在的には「不満足」な学生が多かったのではないと思われる。自由記述欄に「分かりやすかった」という意見が複数あった一方、「内容が少し難しかった」という意見もあった。これは、言語学関連科目の履修経験の差と思われ、言語学関連科目を未修者のレベルに合わせる努力を、もう少しすべきであったかとも思う。

来年度以降に向けて、特にレポートのテーマ（「言語の消滅についての自分の考え」）に具体性がないという意見があったことも踏まえ、到達目標の達成度を測る方法も含めた課題設定のあり方を見直す必要があると考えている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代日本とアジア
授業コード 24C14-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 84
回答数 22
回答率 26.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

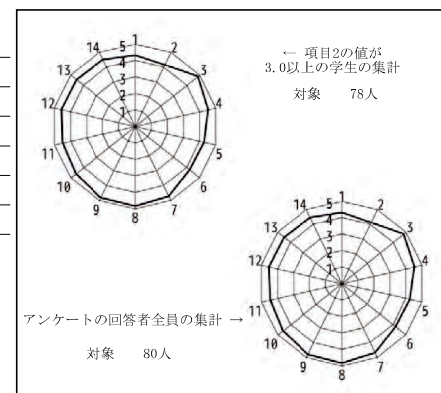
①この授業では、「近現代日本とアジア」という主題のもと、具体的には植民地期台湾、特に台湾先住民政策に歴史的な手法で焦点をあて講義形式で授業を行った。主な教材としては、教員作成の配布プリントを用い、それへの解説と補足の板書を中心に、適宜、映像資料等も織り込みながらテーマを掘り下げていった。授業計画に関しては、前半で説明する予定であったテーマについて、受講生の反応の見ながら、やや予定以上に時間をかけて解説を行ったため、後半は少し駆け足で講義を進めることとなったが、全体としては到達目標の達成に向けて立案した授業計画をほぼ滞りなく進行することができた。

② 上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法などにについては、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.55、設問7の4.64、設問8の4.64、設問9の4.55、設問10の4.59、設問12の4.59という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。反面、到達目標の理解に関する設問5は平均値4.05と大学全体の平均値4.24をやや下回る結果となった。この点は反省点として残る。

③ 以上のような反省から、これまでも授業初回に行ってきた到達目標に関する説明をより丁寧に行うことともに、授業の各回においても、到達目標の達成に向けて、その回の授業内容がどのような位置づけになるのかなど、より到達目標に関連づけた説明を行っていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域文化論
授業コード 24C25-001
教員名 福本 拓
教員コード 104126
登録人数 93
回答数 80
回答率 86.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

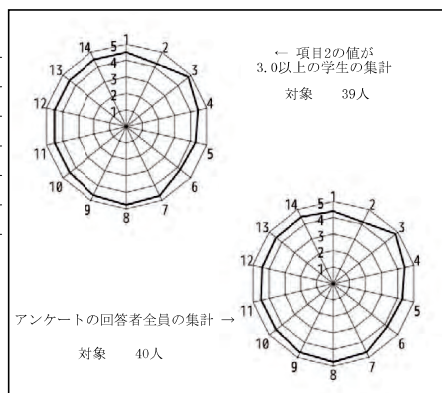
①設定した目標と到達の程度について：毎回の授業におけるリアクションペーパーや試験結果から、平均して十分な水準に到達したと判断する。特に、文化を相対的に捉えつつ、かつ、構築主義に拘泥することなく地域レベルで文化の存在意義を考えることの意義は、相当伝えられたと考えている。

②数値データ等をふまえての総合的な自己点検・評価：担当者としては到達目標に向けて受講生の理解は進んだと考えているが、受講生自身の評価は必ずしも良いとはいえない。また、総合的な授業満足度が4.5に満たなかったことは反省材料である。一方で、視聴覚機材の利用や授業準備についての評価はおおむね良好であった。

③次学期に向けての改善点・抱負・方針など：一回一回の授業において、到達目標との連関性が十分に見える化されていないことが課題であると考えている。15回全体を通してその部分を確認するのではなく、（毎回とは言わないまでも）折に触れて確認する機会を設けるといった対応が有効かもしれない。また、一回完結を優先するあまり、何回かは駆け足になったり内容を詰め込みすぎたという反省点もある。これは、自由回答でも記されており、もう少し余裕を持った授業運営を心掛けたい。次年度は、Webclassを利用した授業参加の機会を増やすことも考えている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代小説研究
授業コード 24C37-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 115
回答数 40
回答率 34.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年度Q4の開講科目「近現代小説研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

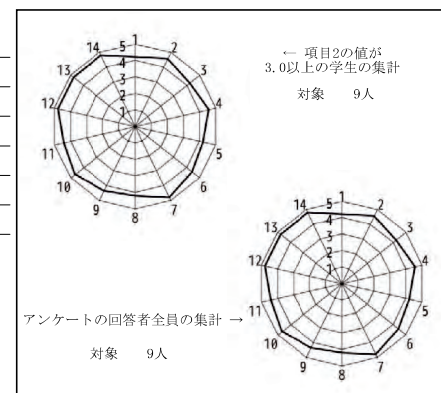
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5、設問6でそれぞれ、4.30、4.20という評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データを踏まえての総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問4と10を除く全ての設問項目で全学部（全体）の平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.45、4.48という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問4（「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」）と設問10（「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていきましたか。」）については、わずかながら全学部（全体）の平均値を下回ったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。とりわけ前者に関しては、各回の授業の狙いをより明確にし、授業の構成に適した配布資料を準備するなど、進行速度に配慮したい。また、適切な課題を課し、学生の主体的な学びの充実を図るとともに、理解が難しい概念的な事項についてはレジュメに詳しい説明を加え、学生の更なる理解に努めたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 漢文学研究II
授業コード 24C46-001
教員名 西岡 淳
教員コード 019315
登録人数 15
回答数 9
回答率 60.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、和刻本のテキストを用いて中国古典詩（宋代の詩）を読み進める内容である。主な到達目標は、漢和辞典を用いて適切な解釈ができること、韻文に特有の規則や語法を理解し、その上で作品の背景や作者の思考方法について考察し、日本文化研究に援用できること、などである。受講生には毎時間の下調べを課し、授業ではそれを元に担当者と応答を重ねながら、読み方や解釈を明らかにするという方法によった。結果は回収して点検のうえ次回に返却し、最後に試験を行った。毎回の提出物と試験の結果から、受講者は問題なく到達目標に達したものと思われる。注釈のない漢詩を読むというのは、受講生にとって非常にレベルの高い作業であるが、それを基本的にこなせるようになったというのは大きな成果と言える。授業評価の全項目の平均値は4.50で、比較的高い評価が得られた。低かった（いずれも4.22）のは設問1（履修前からの興味）、5（到達目標の理解）、8（声の聞き取りやすさ）だが、提出物の内容から、5については受講生は十分理解していたように思う。自由記述では、「添削をしてくれるのがうれしい」との回答が一件あった。本学期は例年に比べて受講生数が少なかったが、こうした参加型の授業については、受講生の達成感が比較的高いのではないかという感触をもった。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の会話教育

授業コード 24C63-001

教員名 岩崎 典子

教員コード 103983

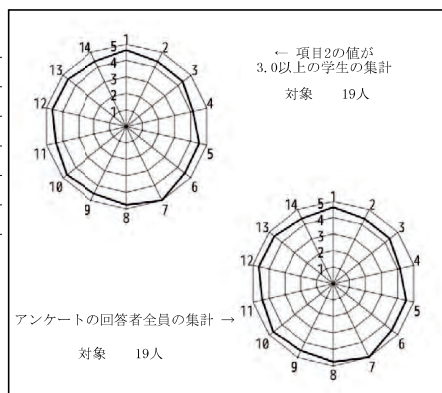
登録人数 27

回答数 19

回答率 70.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定していた目標は概ね達成できたのではないかと思います。もっとも評価の低かったのは、設問4（授業の構成や進度）で、4.16であった。確かに授業で予定した内容を全て終わらないことが多く、全体に遅れ気味であったので、次回はこの点に留意したい。記述回答で、時間通りに終わらなかったという言及もあったが、時間通りに終わっているつもりだったので、やや意外だった。翌週までの課題を最後のスライドで提示していたため、おそらくその説明をしまったのだと思われる。ウェブクラスで課題は見られるようにしているが、ウェブクラスを必ずしも全員が見ていないようで、次週までの課題をどのように伝えるかが課題である。（シラバスに記載していることもあるが、調整、追加などがあった。）自由記述回答では、COIL活動についてのポジティブな回答がある一方、ベネチア大学の教員との連絡に関して、「海外の方と交流する上で情報の伝達が上手くいかず、仕方ない面もあったが、講師同士での情報をもう少し正確に均等にして欲しかった」というコメントがあった。これは今後の課題である。南山がクォーター制で先方とは学期が違うこと、ベネチアが洪水で一時休校状態であったこと、ベネチアの先生がお忙しすぎて、十分に連絡できなかったり、事前の打ち合わせ通りではないことがあったりした。2回目には改善できるよう努力するが、難しい点もある。COIL活動は、学生によって交流を始める時期も交流の頻度も違ったため、交流が終わった後に、活動記録として交流の内容や感想を提出させたが、次回は途中で何らかのフィードバックをする方法を考えたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]5

授業コード 11A08-036

教員名 村杉 恵子

教員コード 019034

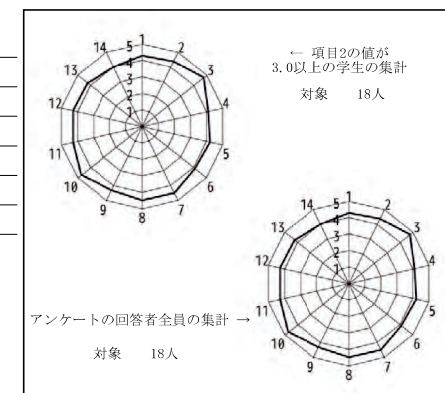
登録人数 19

回答数 18

回答率 94.7%

休講回数 1 回

補講回数 1 回

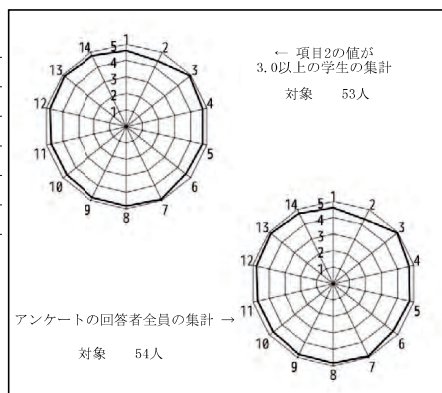


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. このクラスは、国際教養学部国際教養学科1年次生必修のライティング（ならびにリーディング）の方法を教授することを、そのメインの目的とする。TOEFLやTOEICなどの資格試験の取り組み方や、論文の書き方（APAスタイル）、語彙増強などもその目的の一部にあり、また教科書では社会や文化の問題を扱うエッセイ（リーディングのテキスト）とそれに関するトピックで論説文やエッセイを書く練習を含んでいる。提出されたレポートならびに感想を見る限りは、目標は一定程度達成されたといえる。
2. 難しいクラスであったが、今回の授業評価を見る限りは一定の評価を得たといえるだろう。語彙増強のために、教科書の練習問題に加え、クロスワードパズルやスクラブル（語彙と綴りのためのゲーム）、クリスマスの英語の歌、友人の作文を読みあったことなどで、自分の力が伸び、また楽しいと感じた学生もいた。
3. 文章とは、単に文の連なりではなく、行間には文化知識、社会知識、それを支える世界観が存在することを教えることには難しさを感じる。新聞多読を奨励しても新聞から考えを押し付けられる感じがするとコメントした学生もあった。「読んで」「書く」ことの意味と「考え方」をいかに教えるかが今後の課題である。学生に向き合えるのは15コマであるが、学生が、一生、自分自身で英作文の力を伸ばし続けていけるようなストラテジーを教えていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 世界史2
授業コード 12B12-002
教員名 大澤 広晃
教員コード 102964
登録人数 76
回答数 54
回答率 71.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

<授業目標と目標達成度>

シラバスで設定した授業目標と授業内容については、おおむね達成できたと思われる。

<点検・評価および改善点>

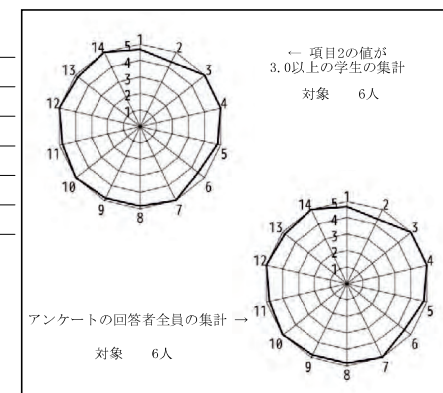
この授業は、本年度に初めて開講したものである。したがって、授業評価の対象となるのも初めてである。そうしたなかで、評価表をみるかぎり、学生の満足度は概して高く、自由記述欄にも好意的なコメントが多かったので、安堵した。登録者数は70名ほどのため、講義形式の授業となったが、小休止の時間をとったり、発問したりして、学生の集中力を切らさないよう留意した。また、内容についても、できるだけ身近な事象を歴史と結びつけて話をしようとしたが、その点についても、学生からよいコメントをもらえてよかった。他方で、共通教育ということもあり、学生の興味関心・知識には、ばらつきを感じた。どの層にターゲットを絞って授業運営をしていくのか、改めて検討していきたい。大学の役職を務めながらの授業準備で、行き届かなかった点もあると思うが、学生からのコメントや質問なども参考に、さらに改善を図っていく所存である。

<今後の抱負>

今回の授業については、おおむね良い評価を得ることができた。ただ、講義形式の授業で学生の主体的な学びと参加をどう促していくかは、重要な課題である。授業の質を高める方策を、引き続き検討していきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学をめぐって2
授業コード 13A05-002
教員名 山辺 省太
教員コード 103138
登録人数 15
回答数 6
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

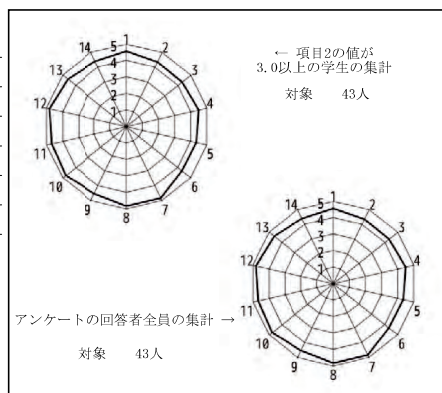


授業評価結果を踏まえた点検・評価

自分の中ではリズムよく進んでいった授業ではなかったが、学生の受講態度がとても真摯で、また授業で扱った文学テキストについて、各学生がとてもユニークな意見を出してくれた。その意味で、この授業は学生に救われたところが多く、まだまだ文学を読む若い学生がいるのだと再認識させられた授業であった。難しい内容だったにもかかわらず、好意的なコメントを残してくれた学生がいたのは、正直うれしかった。今後も学生が文学に関心を持ってもらうよう、授業改善に努めていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史の諸相2
授業コード 13B06-002
教員名 川島 正樹
教員コード 048116
登録人数 48
回答数 43
回答率 89.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

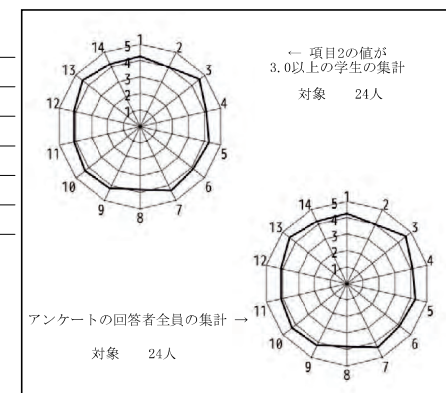


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①項目5の4.35という数値は4.05という昨年度の数値を上回った。加えて、項目6の4.33という数値は3.91という昨年度の数値をかなり上回った。また項目13（新知識の獲得と理解の深化）は4.58、項目14（全体的満足度）も4.37と高い評価だった。
- ②自由記述欄の評価すべき点としては「水曜日が楽しみになるくらいすごく面白かった」「先生の講義に対する姿勢が生徒の授業意欲を引き出していたと思う」など28項目もの極めて多数の好評を得て今後の励みとなった一方、言葉遣いについての改善要求が2点、映像資料の視聴中の解説を簡潔にしてほしい、また討論の時間をもっと尊重してほしい、等の改善提案がなされたので、今後の自己改善努力の参考にしたい。また例年は300ないし200名ほどの多数の受講生用に大規模な階段講義室（G28）を配当されてきた。今年度は50名足らずであり、大規模教室の不適合を指摘する声が目立った。次年度は授業開始時に受講生数を見て必要に応じて早めに改善したい。
- ③引き続き大変好評だったWebClassの活用や周囲の受講生との討論などで共通教育の大規模授業における従来の限界を打ち破る努力を新たな工夫を加えつつ重ねる一方、継続的に講義項目の削減も視野に入れての授業内容の再検討が必要な時期に来ていると確信した次第である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史の諸相4
授業コード 13B06-004
教員名 上村 直樹
教員コード 102463
登録人数 67
回答数 24
回答率 35.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

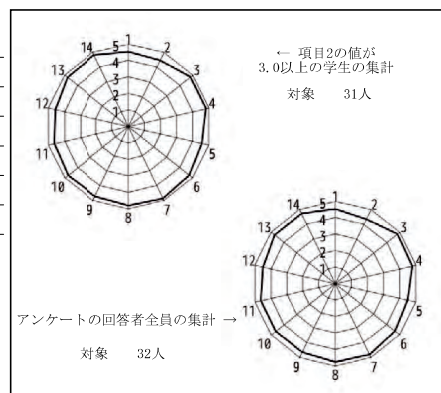


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、①アメリカとアジア太平洋諸国との関係の歴史展開を理解している、②アメリカの対外関係にとってアジア太平洋地域が持つ意味を理解している、③アジア太平洋諸国にとってアメリカとの関係が持つ意味について理解している、の3点であった。15回の授業を通じて目標達成に向けた講義内容の提供に努めるとともに、到達目標自体に関する説明を適宜行い、授業全体のテーマやその日のテーマについての説明とあわせて、到達目標に関しても講義内容に即した形で繰り返し受講生への注意喚起を行った。その効果もあってか、設問5に関しては4.29と科目全体の平均4.21を上回る数値となった。試験の結果も授業内容を理解している（ないしよく理解または、たいへんよく理解している）答案に与えたA+、A、Bが多く、この点でも受講生の多くが講義の内容および目標を理解していたことが裏付けられたと思われる。また今回、全体の評価自体はそれほど高いとは言えないかもしれないが、通常低い設問2も含めて全体としてこれまでにないほどレーダーチャートの形が比較的円に近い整ったものとなった。今後は、そうしたバランスの取れた形のまま全体の評価を高める方向を目指していきたい。但し、今回、設問8が3.83と一つだけ3点台と低くなったのは意外であり、次学期の授業からは、講義の際の声の大きさ、聞き取りやすさ等も改めて学生に確認しながら進めたいと思う。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相10
授業コード 13C06-010
教員名 手塚 沙織
教員コード 103911
登録人数 73
回答数 32
回答率 43.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

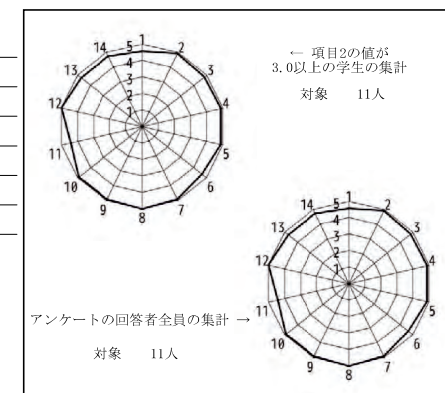


授業評価結果を踏まえた点検・評価

政治・経済の諸相の到達目標は「1. 政治と経済に関する基礎的な知識を理解できる、2. 政治と経済の関係を把握できるようになる、3. ある事象に対して、多角的に学び、議論できる能力を身につけられる。」の三点であった。履修生の学部と学年がバラバラであり、政治と経済、さらには政治学と経済学の理解度やそれらに対する苦手意識などを十分考慮し、どの学生にとっても短かに感じ、理解しやすいドキュメンタリーや動画などを駆使し、それらを理解できるように噛み砕いて背景にある理論を説明し、毎講義にリアクションペーパーを書かせた。政治と経済、政治学と経済学を理解できるように講義内容に修正を加えながら、興味深く、講義後も考え続けられるような含みをもたせた講義を提供できるよう最大限の努力をしてきた。これは、学生にも伝わっていたようで、「講義を履修してよかった」「政治と経済に興味を持つようになった」などと最後の講義のリアクションペーパーでも嬉しいコメントを得た。自由記述回答にも同様のコメントがあり、とても嬉しく思う。講義を通して、政治や経済、政治学と経済学の面白さが伝わり、学生は到達目標には達したと自負する。来年度も、同様な講義を展開したい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A IV1
授業コード 31A04-001
教員名 TOLAND, Sean
教員コード 103616
登録人数 26
回答数 11
回答率 42.3%
休講回数 2 回
補講回数 3 回

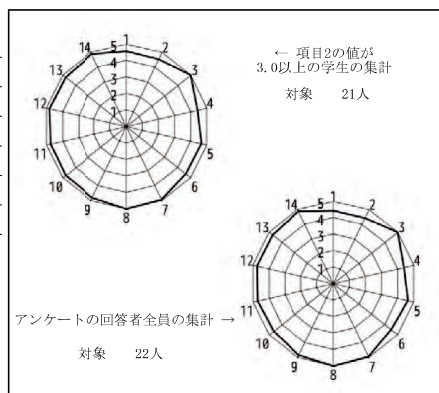


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the Academic English A course were covered during the fourth quarter. The end of the quarter report revealed that only 50% of the class completed the online survey. Of course, it would have been beneficial to the voices of the entire class. There were a few items that emerged from the formal and informal feedback that I received this past quarter. First, I will enhance the peer and self-evaluation feedback forms that students used at the conclusion of each of the collaborative projects. In addition, I will get students to submit these forms electronically to make the process more convenient and reduce the amount of paper my AEA classes use. Another change that I will make which should help students to improve the overall quality of their writing assessments is scheduling more lessons in the CALL classrooms (i.e., computer labs). This strategy will allow students to collaborate more effectively and enable me to notice formatting and other types of errors in 'real time'. Several students commented this year that it was often challenging to meet up with their classmates outside of class because everyone was busy and had different schedules. I recently attended a meeting with several of my colleagues that focused on the effective use of pre-writing strategies and peer-editing activities in an Academic English course. I will be integrating a number of these ideas into the classes I teach during the 2020-2021 academic year.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A IV2
授業コード 31A04-002
教員名 SAKAMOTO, Fern
教員コード 103615
登録人数 25
回答数 22
回答率 88.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

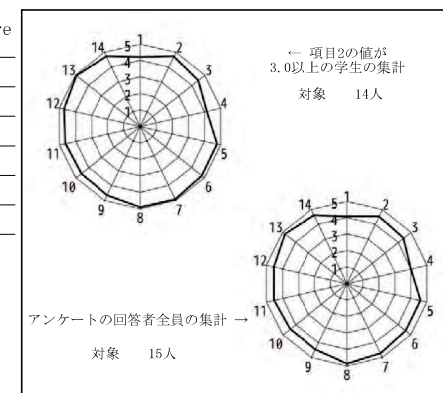


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, this course aimed to improve students' communicative abilities and equip them with academic skills necessary for future study in English. All students expressed a high degree of satisfaction with the instruction and teaching materials. Many students commented positively on the opportunity to explore complex topics in English and felt that they were able to develop deeper understanding of the issues as well as valuable academic skills. The lowest scores from students related to interest prior to taking the course and to the students' own degree of effort. This is a compulsory language course so it is to be expected that students do not choose it based on interest. I hope that their interest was higher by the end of the course. Areas that students rated highly related to teacher enthusiasm and management of the class. This is encouraging and I will continue to try and inspire students as best I can. I would also like to work to bolster student confidence and help them to see their own progress towards the course objectives more clearly.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
D<国際科目群>
授業コード 31C09-901
教員名 PURCELL, William
教員コード 016501
登録人数 25
回答数 15
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



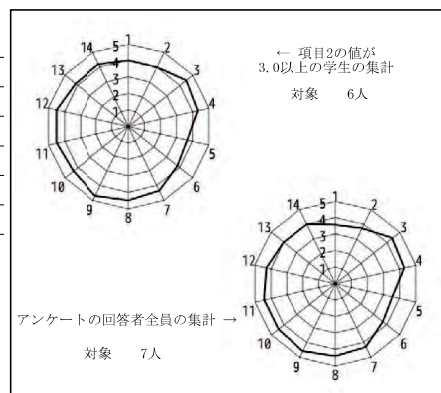
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Judging from the rating data, those who took the time to do the evaluation seem to have been satisfied with the course (4.54). Only three took the time to add comments. One said before taking the course she was largely ignorant about Africa and African peoples, so the content was interesting and informative for her. Another said she found the stories quite interesting and was surprised to realize how informative literature can be. A third repeated a request often made regarding the speed of the slide presentations I use. This is a common complaint/request that I try to be conscious of, but it often seems that no matter how slowly I move there is always someone for whom the presentation is too fast.

This is the first time I have taught this material, so I had a lot of hesitations about it. I was hoping for more feedback in order to help me improve both the content and the presentation. This group, more so than other classes in recent years, was much more unresponsive than I have become used to. I am not sure why they were hesitant to be more participatory, but it is something to pay closer attention to in the future.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
E<英米学科2017生用>
授業コード 31C10-001
教員名 SHILLAW, John
教員コード 100560
登録人数 13
回答数 7
回答率 53.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



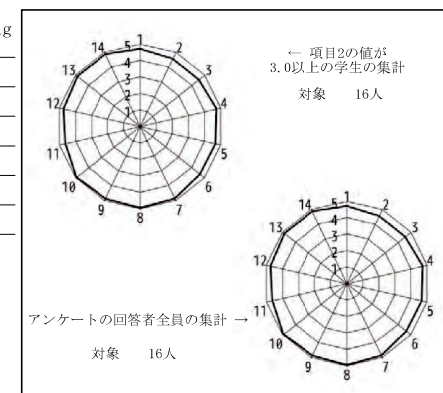
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a content-based course on the history and development of photography. The goal is for students to engage with the topic to improve their knowledge of English generally as well as language specifically related to photography, art, history, and culture. It turned out to be a more challenging course than I had expected. Based on rather mixed feedback that I received from students the first time I taught it two years ago, I increased the amount of contest and the pace of teaching. Unfortunately, about one-third of the class found it difficult to keep up with the pace or content. Although the class was rather small, the range of English ability was surprisingly wide, and the less able students had problems reading so much text. In contrast, they seemed to find the videos easier because they included sub-titles. I will need to reconsider the balance of the content and means of delivery.

It was also notable that most students had not read the course syllabus in detail and seem to have misunderstood what the course would cover. However, by the end of the course, most students had absorbed the main points of the classes and were all able to produce very creditable presentations.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language A3
授業コード 31C11-003
教員名 今井 隆夫
教員コード 104239
登録人数 20
回答数 16
回答率 80.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

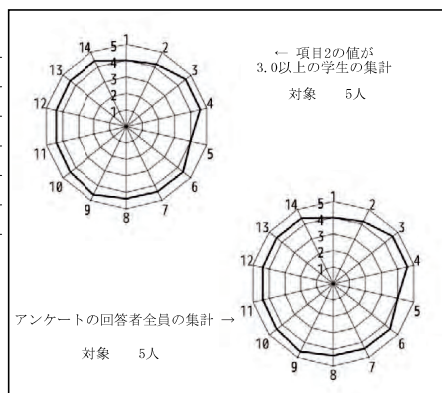


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、達成できたと思われます。受講生の数値データおよび自由記述から、授業の趣旨が理解され、ほとんど全員の学生が、授業内容に満足し、学びがあったと思われます。数値データは、4.56~4.94の間に収まっています。記述データでは、「英語の基本的な知識の捉え直しができたことと、ディスカッションのしやすさ。」「新しい・度から英語を学べた気がします！とても楽しい授業でした。また先・の授業とりたいです。」「授業が充実していた。今まで暗記作業だった・法の内容を感覚的にとらえる・法という形でまた新たに学び、より・層・分の知識が深まり、また理解度も上がったように感じ、勉強になりました。」というコメントがあり、いずれのコメントもアカデミックな内容を教員も学生も英語を使って学ぶことで、①アカデミックな知識を得ること、②学生に考える機会を与えること、③学生の英語力の向上に役立つ機会とすることという3つの柱は、達成できたものと思いますので、今回の授業をベースに、次回以降もさらなるバージョンアップをしていきたいと思っています。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language E4<英米学科2017生用>
授業コード 31C15-004
教員名 浅野 享三
教員コード 070912
登録人数 6
回答数 5
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者数6名、回答者数5名につき、統計的・数値的な処理結果は平均値をはるかに上回っているものの、学生による評価を適切に物語るものとしての程度受け止めても良いものなのかどうかについて判断ができない。

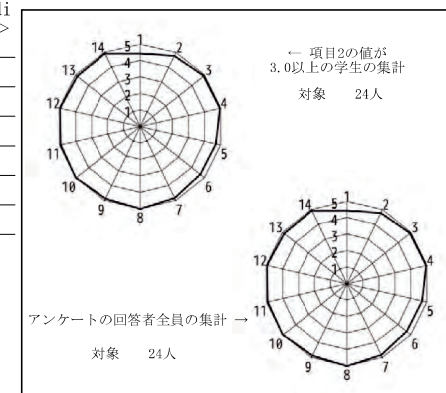
1. 当初の目標については1名を除いて、到達できたと思われる。エクセルデータによれば、同一学生が多項目について「2」と回答していた。

2. 前述のように「数値データ」を踏まえても良いものだとすれば、素晴らしい授業だったと判断できる。自由記述にも「座学だけでなく実践もでき、力がついた」との回答あった。

次の学期に向けての改善点を順不同に挙げる。ア) 初回の説明時だけではなく、折に触れて本授業の目標と到達の程度について繰り返し学生に知らせること、イ) 授業の性質上講義によってのみ成り立つ授業ではなく、参加型の演習部分が欠かせないことを、初回説明時に加えて、折に触れて知らせる、ウ) 授業の性質上グループワークが必須であることを、初回説明時だけでなく頻繁に伝え、その重要性について理解を求めること、エ) 理由に関わらず欠席・遅刻は深刻な結果をもたらすことを、より強く認識させること、などである。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B<国際科目群>
授業コード 31C17-902
教員名 DORMAN, Benjamin
教員コード 100695
登録人数 28
回答数 24
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course is to introducing students to aspects of Australian identity from the perspective of indigenous history, convict history, and military history. Content included language, literature, Australians' experiences in wartime, relations between Australia and Great Britain, and indigenous Australians.

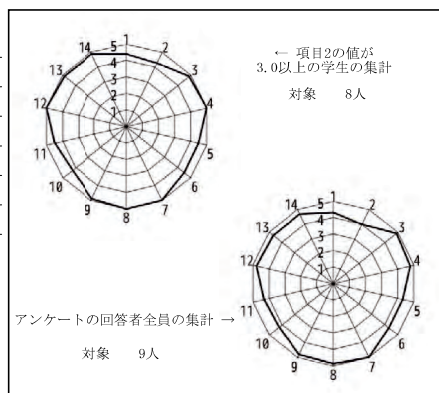
The course included four films — "Gallipoli," "Rabbit-Proof Fence," "Gurumul," and "The Dish." These were generally well received by the students, although the content of the first two films are quite confronting. Nevertheless, they highlight important aspects of Australian culture so I will continue to use these materials.

In every class, students were divided into groups and took turns facilitating discussions, which were based on material presented the previous week. This exercise appeared to be highly effective and motivated students to learn. Students took the discussions and writing seriously, and the attendance rate was high.

In future, I may consider the following adjustments: (1) keep lights on during films so that students can write notes (2) spend more time introducing the films through questions.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies C
授業コード 31C18-001
教員名 平松 彩子
教員コード 103468
登録人数 11
回答数 9
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

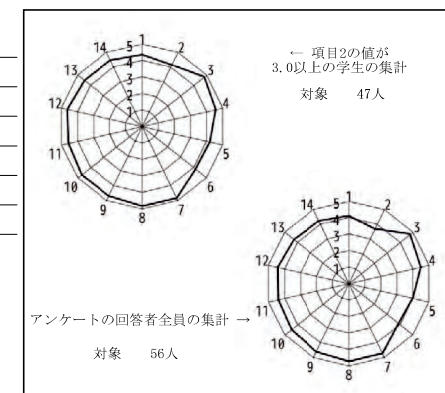


授業評価結果を踏まえた点検・評価

There were three objectives to this course: 1) Students learn about the ways in which opposing views on race shaped the historical development of American public policies through the country's systems of separation of powers, and checks and balances; 2) Students learn the extent to which race influences the contemporary political debate in the United States; 3) Students will also learn to write and orally demonstrate complicated and nuanced ideas to the audience in English. These goals were achieved through the in-class instructions, student discussions, presentations, and the reading and audiovisual materials. The student evaluation, so far as it is observed from the numerical score, was overall good. The book chosen for the reading assignment covers a fair number of public policy issues related to racial politics in the United States and therefore I consider it to be a good textbook for this course. But as some students commented, the book's writing style was highly academic and difficult to understand for the undergraduate students. I will need to replace some of the texts with ones that are written in simple English next year.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学研究の基礎<国際科目群>
授業コード 31D02-901
教員名 TEE, Ve-Yin
教員コード 101626
登録人数 142
回答数 56
回答率 39.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

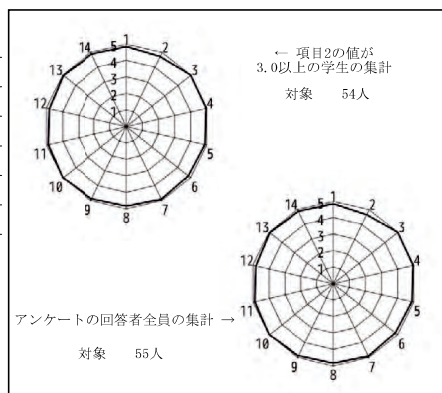


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a course for students to learn about British and American culture through children's books. In terms of evaluation, it was above average for a large lecture. Having run this course for several years now, I'm not sure how I can improve the course any further. The comments I've received have been overwhelmingly positive, with the exception being the complaint that the course should be exam- or report-based rather than both. I've settled on this system, because my preference for an essay written under exam conditions would disadvantage many students who are in their first year and as such do not really know how to write a 5-paragraph essay.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米コミュニケーション特殊研究B
授業コード 31E37-001
教員名 今井 達也
教員コード 102469
登録人数 73
回答数 55
回答率 75.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

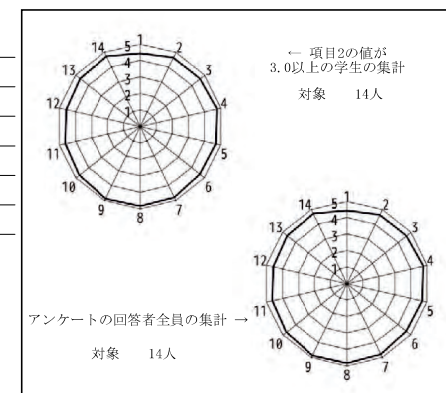


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業では身の回りの人間関係の問題について、科学的なデータをもとに理解し、その問題への解決策を提案できるところにあった。学生は講義ならびにグループワークに積極的に参加しており、テストで人間関係の問題についての理解を示しながら、グループワークを通じて意見交換を経て、問題への解決策を論じていた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
数値データは概ね高かったが、自由記述の意見の中でグループワークの議題をもっと明確にしてほしい、という内容のものがあつた。グループワークの議題は話し合いの質を決める重要なポイントであるため、今後の授業ではもっと練られたものを提供したい。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
講義で使った資料も、古いものがあるためアップデートしていきたい。それと同時に内容の正確性を高めていきたい。グループワークのトピックについても、話し合うことにより学びが深められるもの（ただ盛り上がるものではなく）にしていくため、教員自身の学びも高めていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV6
授業コード 48A08-006
教員名 伊藤 聡子
教員コード 102445
登録人数 19
回答数 14
回答率 73.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

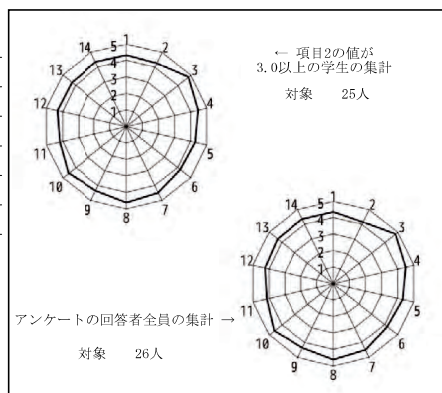


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3に引き続きディスカッションを中心にテキストから得た知識を応用して身近な事象を分析・考察する力、その結果を意見として英語で述べる力の養成を目標とし、ディベートを取り入れた。記述式回答にもディベートの法を理解することができ、実際に実践することができるようになった旨があり、授業評価結果の(5)到達目標の理解および(6)力がついてきた実感の数値がいずれも高いことから目標は達成できたと思われる。今回(5)到達目標の理解および(6)力がついてきた実感の高い評価を得られたのは、(2)主体的学習と(4)授業の構成と進度の適切さ、(9)学生の理解度への配慮が特に評価の高かったことから、グループ活動を中心とする授業運営に起因するものであったと考えられ、結果として(14)満足度も比較的高い評価を得られた。コメントにも授業の運営法が一定していたため集中できたこと、課題の準備期間が十分に用意されていたことがよかった点として言及されている。また前回指摘された声の大きさについても評価は高くなっており、改善することができたといえる。質問の機会に対する評価はやや下がったものの、質問をしやすい雰囲気であったことを評価するコメントがみられることから、この点について大きく方法を変えるかどうかについては今しばらく様子を見ていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳7
授業コード 10D08-007
教員名 浅香 幸枝
教員コード 000165
登録人数 57
回答数 26
回答率 45.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

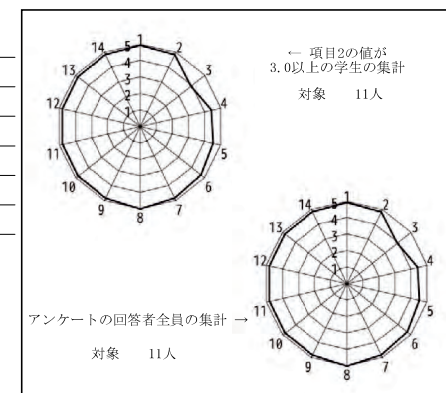
授業目標は達成できたと思う。項目1～14の平均値は4.39であり、項目3～14の平均値は4.41であった。4.5以上の項目は5つあり、授業の開始と終了の時間が守られており、毎回の授業構成や進行速度は適切で、担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ・真剣さを感じ、教員の声や音声機器の音は良く聞き取れ、学生の私語など授業の妨げになる学生の行為について適切な指導をしたとしている。4.3以上4.5未満の項目は5つあり、履修以前に授業内容について興味があり、授業の到達目標を理解でき、教員は学生の理解度に配慮し、教科書、板書、配布資料などを用いて授業を進め、この授業を通して学生は新しい知識を得て、全体として授業に満足したと回答している。

自由記述欄には、教員の知識や経験談がとても豊富で、すごく内容の濃い充実した授業だとか、普段触れる機会がないのですごくためになったと評価している。また、一回の授業で一地域について取り上げ、一回一回理解を深めることができたコメントしている。双方向のポートフォリオ型リアクションペーパーに最後に自分の感想を書くことで、一回一回の授業を定着させることができた。また、最新の新聞記事を毎回ピックアップしたので、世界の動きも少しだけ知識として身についたとしている。

学生たちは事前に教科書を読み、皆で民族問題を人間の尊厳の立場から考えたことが双方向授業として成功したと思う。今後も学生たちの可能性を伸ばしていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VIII[FS]1
授業コード 11D08-001
教員名 泉水 浩隆
教員コード 102114
登録人数 32
回答数 11
回答率 34.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

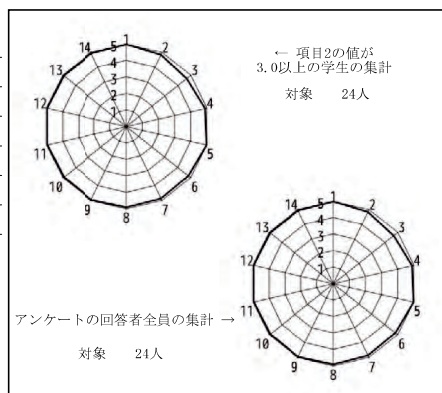
今回の授業評価においては、設問4～18の平均値が4.72、全設問の平均も4.70となりました。Q2で対象となったのと同じクラスで、その際は回答数が少なかったため、レーダーチャートも出ませんでした。今回はアンケート回答への呼びかけに応じていただけたのか、十分とは言えないまでも、その時より回答数も増えました。今回のレーダーチャートはおおよそ外周に近い形になっており、また、全体としての満足度も4.82でしたので、概ね受講生の皆さんには好意的に受け止められたものと考えます。昨年度と比べ、授業進度についてもほぼ予定通り終了することができ、各回とも比較的順調に進めることができました。

設問3, 4, 5に若干へこみが見られますので、今後は授業開始・終了時間、進行速度、到達目標に関して再度見直しを図り、より効果的な授業が展開できるよう留意したいと考えます。特に、1年生終了も近いこの時期には、中級文法へつなげるための難易度の高い項目も徐々に出てきていますので、理解を助けるための方法を考慮するとともに、分からない項目に関する質問を積極的にできるようにする雰囲気を作り出したいと考えます。

全体として見た場合、特に大きな問題はなかったと思われますので、今後もこれまでの方針を続け、必要に応じ微調整を行う所存です。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VIII[FS]2
授業コード 11D08-002
教員名 小阪 知弘
教員コード 103689
登録人数 32
回答数 24
回答率 75.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

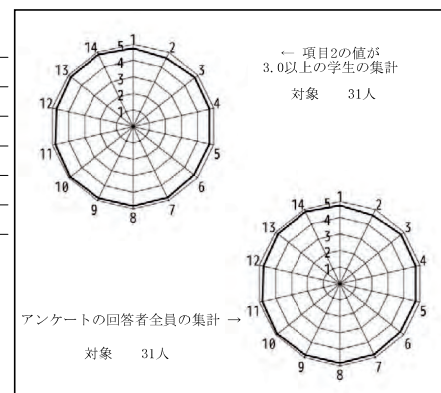


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと判断している。なぜなら、初級文法の範囲を一通り説明し、同講義の到達範囲である、命令形や過去未来形もスペイン語初級学習者たちにわかりやすく解説することができたからである。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、結果として全ての項目において4.6以上を獲得することができたため、受講者にとってもわかりやすく有益な授業であったと判断している。また、自由記述解答についても、「先生が親身に相談や質問を聞いてくれた。授業が分かりやすかった。」や「先生が、丁寧に文法をわかりやすく教えてくれました。」など、文法説明がわかりやすかったと多くの受講者が書いてくれていることから、担当したスペイン語初級文法の講義がわかりやすく有益な内容であったと総合的に見なすことができると報告者は考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針については、さらにわかりやすい講義を展開するため、板書きを丁寧に書き、学生たちにスペイン語文法の思考の流れをスムーズに伝達するよう心掛けることにしたい。そして、時に大雑把な説明になっていたようなので、講義の精度をさらに高め研鑽を積み、丁寧な文法説明と思考説明を今後は進展させていく所存である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IID1
授業コード 32A17-001
教員名 遠藤 健太
教員コード 103936
登録人数 38
回答数 31
回答率 81.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

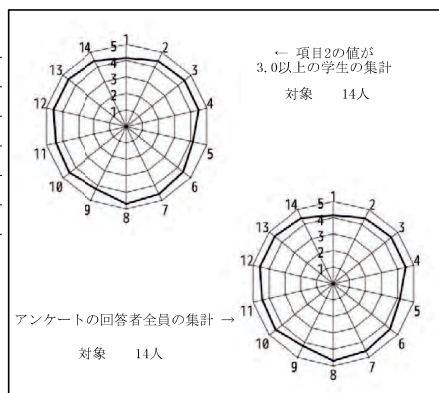


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この科目は、学科2年次生の必修スペイン語科目でありながら、既習事項の「復習」という位置づけのものであった。そうした特性ゆえ、難易度の調整がなかなか難しいと感じていた。授業のレベルを優秀な学生に合わせると一部の学生にとっては難しすぎると感じられてしまうし、逆もまた然りであった。そこで、文法の解説は初歩から丁寧に分かりやすく行い、そのうえで自由度の高い実践的な練習（短文の西→日翻訳など）を積極的に取り入れることで、優秀な学生たちにもやりがいと手応えを実感してもらえるよう努めた。
- この科目のもう一つの特性は、「発音」練習に力点を置くことだった。これについても、理論と実践の両方を重視した。理論編では初歩的な事項（音節の数え方や区切り方、強勢語と無強勢語の区別など）の説明を丁寧に、実践編ではスペイン語の詩や歌なども教材として用いながら、この種の発音練習がいかにスペイン語の習得にとって重要であり面白いかを実感してもらえるよう努めた。
- 学生による評価は、数値をみても自由記述をみても概ねとても良好だったし（数値では私自身の自己ベストを更新した）、回答率も悪くなかった。以上より、本科目の目標を概ね達成できたと考える。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIA2
授業コード 32A19-002
教員名 ESCANDON, Arturo
教員コード 102090
登録人数 32
回答数 14
回答率 43.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the beginning of the course were for students to a) read more rapidly and with a better understanding the material extracted from press outlets, b) recognise public debates that frame the readings, c) recognise key concepts, and d) master reading strategies and skills, including autonomous research skills. Overall these goals were accomplished. Students read the material in class and then did a follow up by searching suitable material that helped them to better understand the context. The research was shared with peers in class and key concepts were summarised with the help of the teacher. This allowed students to build a conceptual understanding of the issues that went beyond what they could achieve by checking words on a dictionary. Group discussions also helped them improve their understanding of the issues posed in each reading.

I am currently researching reading comprehension skills for this level and producing new material with the help of my teaching partner so as to improve the reading material during the next academic year.

I wish to express my gratitude to all students who contributed enormously to the success of the course.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン史B
授業コード 32C04-001
教員名 永田 智成
教員コード 103900
登録人数 10
回答数 3
回答率 30.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

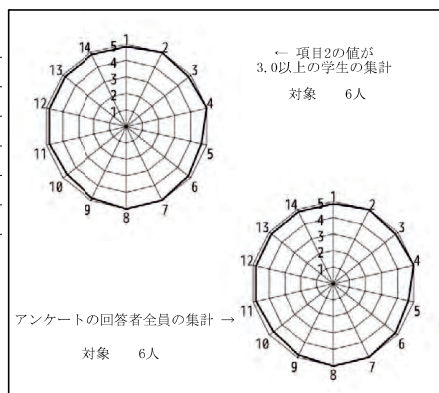
開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思われる。この講義では、主に米西戦争での敗北、2度の独裁制の経験、内戦、伝統的に王国であつての共和政の成立、民主化というスペイン20世紀の激動の歴史を概観することを目的とし、その知識を巨視的な観点から、来るべき備えとして、他地域・他時代に適用できる可能性を模索した。毎授業で配布していたオピニオンペーパーのリアクションからその目的の達成がなされたと感じている。

今回の講義は、受講者が少なく、数値データや自由記述欄などの詳細は確認できないが、各回答者の評価を見るに、概ね満足しているように感じられる。

この講義としては来年度以降も同様のやり方でやっていこうと思いを新たにしたい。また、次クォーター以降の講義科目の抱負として、講義科目であっても、教員からの一方的な情報発信にとどまることなく、オピニオンペーパーを活用することにより、学生とのコミュニケーションを重視した講義を続けていきたいと考えている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語圏異文化コミュニケーション論B
授業コード 32D15-001
教員名 CARDENAS, Abel
教員コード 017525
登録人数 7
回答数 6
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

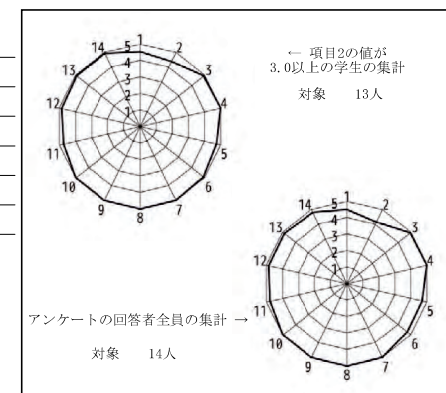


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students develop their intercultural communication skills in the Spanish-speaking world, with particular emphasis on non-verbal communication. This was achieved by the use of a variety of pair and small group tasks which focused on aspects of body language, chronemics and proxemics, which allowed students to compare the behavior of individuals from Spanish speaking countries and their own. Although the number of participants is small, the results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all of the aspects included in the three major categories of the class evaluation received an average score of 4.85, which is higher than the average achieved by other courses in the department and across the university campus. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were: the use of a variety of pair and small group tasks, the relevance of the themes selected which increased their awareness of non-verbal behavior, and the fact that the class was conducted entirely in Spanish.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語IV<E・B>3
授業コード 11B04-009
教員名 松川 雄哉
教員コード 103644
登録人数 14
回答数 14
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

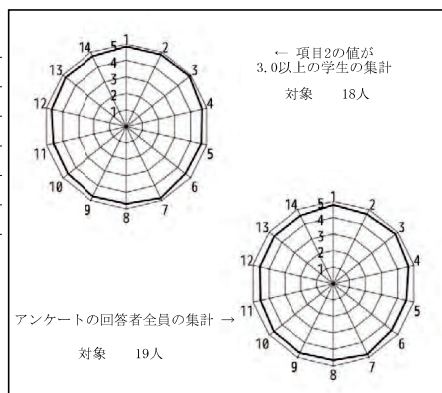


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、このクラスはとても雰囲気良く、授業がとてもやりやすかった。開講当初に設定していた目標については、問題なく達成できていた。次に、アンケートの数値データを見てみると、全体的に高い満足度が伺えるが、項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」の平均値が他の項目と比べて低かったのが気にかかる。この授業はグループワークが主なクラス活動となっているため、学習者が主体的に授業に参加する姿勢が重視される。授業では、必ずまずグループを作ってから授業に入るのだが、1限目ということもあり、時折クラスの雰囲気が活発になるまでに時間がかかることがあると感じた。学生の中にはグループワークが苦手な学生もいるため、来年への課題として、どのように学生一人一人がクラスに強制的ではなく参加するように促すかを考えていかなければならない。例えば、授業に入る前に、フランス語とは関係ないアイスブレイクを取り入れると言った工夫を来年度は取り入れていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VII[FF]1
授業コード 11B07-003
教員名 茂木 良治
教員コード 102698
登録人数 27
回答数 19
回答率 70.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

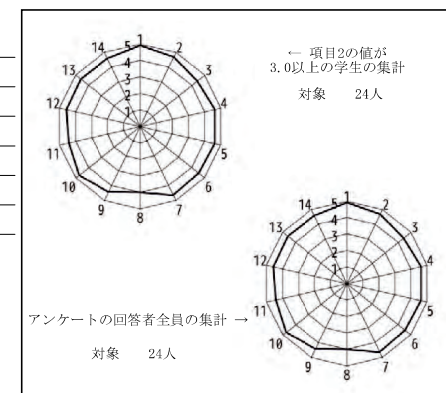


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Z6 nith2という教科書を使用して、予定していた12～24課を終わらせ、当初設定していた授業目標は達成できたと思う。学生たちは欧州言語共通参照枠のA2レベルへの到達に向けて学習したことになる。フランス学科1年生向けの科目のため、教員から見ても授業進度は比較的早いですが、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」で4.34点と高い数値を得られていた、また、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.58点だったことから適切な授業運営だったことがうかがえる。設問3～14の平均点が4.64と高得点であることから、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄に、「文法の説明がわかりやすかったです。」とあるように、解説の内容および手法について肯定的な記述が多数見られた。否定的な意見は見られなかったが、練習問題の提示などが不十分であったという印象があるので、復習を適宜入れながら今後は進めていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VII[FF]2
授業コード 11B07-004
教員名 平田 周
教員コード 103583
登録人数 27
回答数 24
回答率 88.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

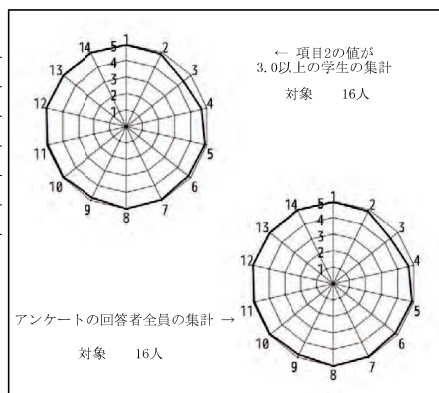


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① フランス語VIIでは、当初予定されていた文法項目および会話文等のテキストに関する解説をすべて無事に終えることができました。教えられる構文や文法が複雑なものになっていったにもかかわらず、毎回の講義で課す小テストおよび期末テストの結果を見た限りでは、多くの学生が持続的かつ意欲的に取り組み、優れた理解を示してくれました。この結果を踏まえれば、当初設定していた目標は十分に達成されたと言えるように思います。
- ② 可能な限り、文法の説明をシンプルかつ体系的に教えることができるように日々努力することを心がけており、その点が一部の学生からの反応に見られることを嬉しく思います。しかし、文法を説明した後の、練習問題やアクティビティの実施に関しては、数値データや自由記述だけではなく、教室の反応をも考慮した限りでは、より改善の余地があるのではないかと自問します。
- ③ このことは単に学生の反応というだけでなく、テストの結果にも反映される学生の学習に対する動機づけや、それを持続させる力にも関わることです。1回1回の講義で試行錯誤をつづけながら、また同僚の先輩の諸先生方とも成功例や失敗例を共有しながら、より多くの学生に内容理解を促すことができるように励みたいと思います。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VIII[FF]1
授業コード 11B08-003
教員名 COURRON, David
教員コード 019026
登録人数 18
回答数 16
回答率 88.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to acquisition of grammatical patterns in various contexts.

2. Degree of achievement of initial course objectives

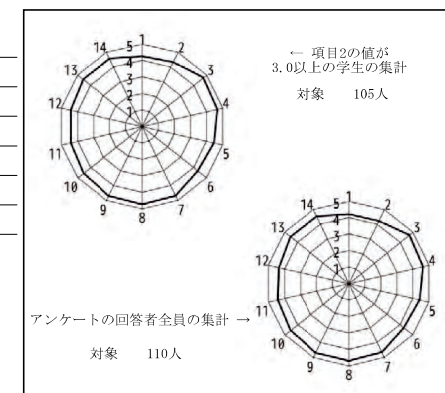
This quarter, though the amount of homework may have seemed heavy for some, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above. Some valued verb tests and dictations, the fair balance between explanations and practical activities and the frequent chances they were granted to study through their homework.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will then do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my grammatical explanations along with my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my home page. Moreover my taking into account students remarks all along the course helped me to adapt contents according to the level of understanding which proved to be highly rated.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相3
授業コード 13C04-003
教員名 小林 純子
教員コード 102488
登録人数 199
回答数 110
回答率 55.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

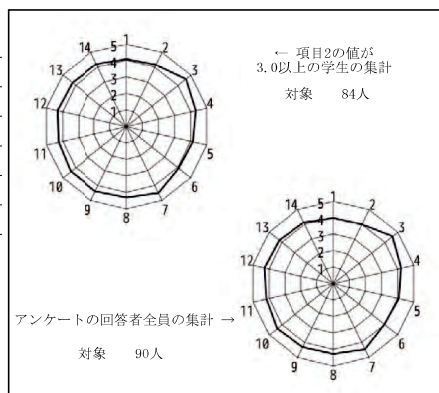
当該科目は、現代ヨーロッパにおける人の移動をテーマに、受講生が移動の背景や影響を理解し、その中で生まれた作品についての知識を獲得することを目標とした。講義内容の理解度や関心を把握するためのレポートから、多くの受講生は内容の理解のうえに、自らの環境との比較と課題の考察を行い得ていることをうかがい知ることができた。

数値データおよび自由記述を踏まえると、内容面ではレジュメやスライドの順番や内容をこえて説明をすることがあり、このことが分かりにくさの指摘につながっている。また主体的な学習を促進するための工夫や課題の量・進度の調整に課題を残している。運用面では大教室での人数の多い講義であることから、レジュメやレポートの受け渡しの方法にさらなる工夫が必要である。

次クォーター以降は自由記述回答の提案のようにレジュメやレポートの受け渡し箇所を2つ設定してレジュメやスライドをより分かりやすいものとしたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス文学史
授業コード 33A05-001
教員名 吉澤 英樹
教員コード 103584
登録人数 169
回答数 90
回答率 53.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

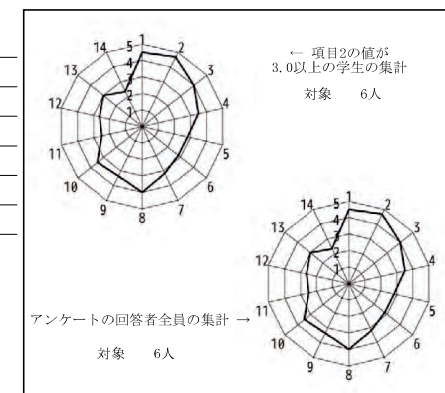


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当科目はフランスにおける文学という制度と概念の歴史を社会的な背景を踏まえながら作品との関係を考察することに主眼を置いていた。冬休みの課題を通して、実際に学生がリストの中から関心に従って文学作品を選び、文学史の中における作品の位置付けと作品としての魅力について意見を持つという目標に関しては、2年前の同一科目の時よりも改善されテスト結果を見る限り概ね達成できたように思える。ただ現代における文学の重要性に関する見解をあらかじめ共有できていなかったために、授業の目標自体に意義が見出すことができない学生が多数でjはないものの、一定数いたことも事実で、それがアンケート結果に反映されている。②文学というものに親しみのない学生を引き込むために、時代ごとの社会における文学の機能や、諸芸術のジャンルとしての位置付けを、歴史や他媒体に言及しながら紹介したことに対しては一定の評価を得られてように思う。ただし、同じ事象を様々な角度から説明するスタイルは、文学について馴染みのある学生にとっては冗長な説明となってしまうようだ。今後は100人以上の学生すべてとは言わないまでも、様々な層の学生にフレキシブルに対応できるように細かに授業内容を調整する必要があると感じた。③大教室の講義形式のため一部モチベーションの低い学生の私語を嫌う学生の不満などもあったので、授業の密度は落とさず、モチベーションの低い学生を取り込みながら多くの学生の満足度を全体的に上げていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIA3
授業コード 33A13-003
教員名 REBOLLAR, Patrick
教員コード 100084
登録人数 23
回答数 6
回答率 26.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

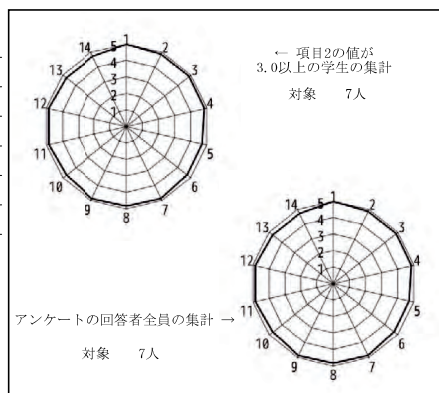


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In the actual curriculum of the French Department, the Q4 of the 2nd Year is, for the students, the last moment for making efforts to learn methodically french grammar and vocabulary for a good and basic communication, which is the goal of this course. For the native teachers, it is a crucial moment to fix this data in the minds of the students, when they have less motivation than in the previous terms. We were helped by the fact that the program is the continuation of that of the 3rd quarter, with the same French book and the same type of exercises. As the majority of students are used to it, we were able to give more importance to creative activities in groups and also to personal expression, by using various documentary sources from the Internet and learning to use them correctly. At the same time, we realized that certain basic grammatical rules were already forgotten and that we had to try to relearn them, which the students do not accept easily. I hope for the next quarter, semester or curriculum that the use of French will be more systematic in all the courses of the department, so that the students are motivated to learn it.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス社会特殊講義A
授業コード 33C16-001
教員名 齋藤 山人
教員コード 104150
登録人数 24
回答数 7
回答率 29.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

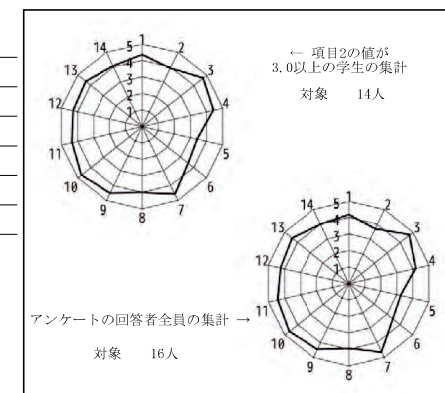


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当該クォーターを通してシラバスに記述した内容に従って授業を行い、開講当初の目標は概ね達成されたのではないかと考えられる。最後のまとめに割くべき時間が予定していたよりも少なくなってしまうが、それ以外は特に問題もなく授業の進行ペースを維持することができた。②授業評価アンケートの数値データや自由記述に鑑みると、今回実施した授業は学生に対して十分な教育効果と満足感を与えるものであったと考えられる。講義の主題は思想や芸術に関するもので、話の内容が抽象的にならざるをえない局面も少なからずあったが、視聴覚教材を適宜取り入れたり、パワーポイントで作成したスライドに工夫を凝らすなどして、学生の集中力と関心を保つことができた。また、講義科目ではあるが、時折グループワークを取り入れたことも効果的であったと考えられる。③今回はやや時間が不足気味になってしまった最終回のまとめを、来年度以降はもう少し十分な余裕をもってこなせるようにペース配分を調整したい。また、新たな講義内容も積極的に取り入れて、学生の関心を刺激するような授業展開を常に維持するように努めるつもりである。今年度はアンケートの回答数が少なかったため、来年度以降は受講者に対して、アンケートへの回答をさらに積極的に呼びかけることにしたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語IV<H>1
授業コード 11C04-001
教員名 水守 亜季
教員コード 103678
登録人数 20
回答数 16
回答率 80.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

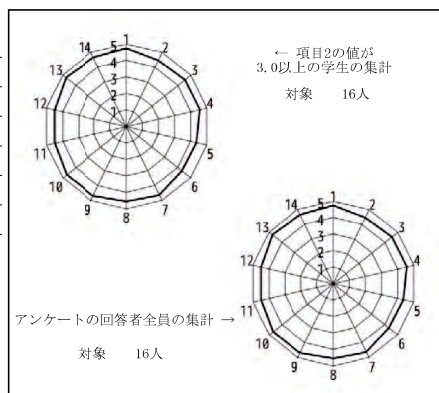


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいたA1レベル相当の教科書を使い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのため授業には、①ペアワークやグループワーク、②文法規則などを学生自らが発見する活動、③既に持っている知識・経験を手掛かりにドイツ語の意味を推測するトレーニング、④ポートフォリオを用いた学習の振り返り、といった要素を取り入れた。授業全体の満足度を問う設問(14)の平均値が4.00とQ2に実施されたアンケートと比べても高い数値になったこと、設問(3)～(14)の平均値4.20となったことから、学生がアクティブラーニングで語学を学ぶ授業を受け入れてきたことがうかがえる。知識の増加や理解の深まりについて問う設問(13)はQ2でも4.24と高い数値だったが、Q4ではさらに上がって4.44となり、自由記述では、「生徒同士で質問しあえる環境」、「相談する機会が多くあったこと」、「体で覚える形」を評価する声があった。アクティブラーニングの効果を学生も実感していることの証左といえる。さらに自由記述の中や、期末に授業内で行った振り返りのワークで、学生自身がもっと発言すべきだった、話しやすい雰囲気づくりに協力すべきだった、というような、クラス運営を「じぶんごと」ととらえて考える意見も多く、このような視点を持つ学生が増えたことも協働学習、自律学習の大きな効果だといえる。設問(2)の値はQ2の3.18から3.69に改善したが、今後も自律的な課外学習を促す工夫を続けてゆきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VIII[FG]3
授業コード 11C08-005
教員名 角山 朋子
教員コード 104039
登録人数 20
回答数 16
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



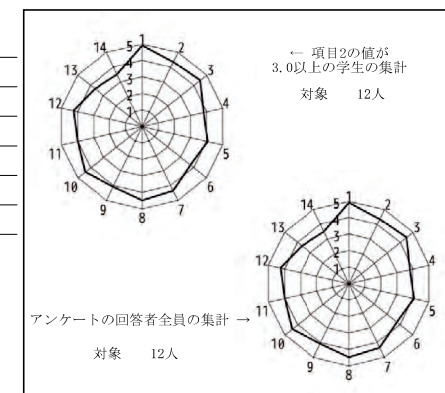
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第3クオーターのアンケート結果と比較し平均値がやや下がった。しかしながら、設問（2）、（6）の平均値は上がっており、主体的に授業に参加しながら学習し、実力がついてきていると感じる学生が増えている。設問（13）の平均値も、前回より0.1ポイント下がったものの高い値であった。学生たちが主体的な学習態度によって学びの実感を得ている様子がうかがわれ、各自が1年を通じて自分なりの学習方法を構築したのではないかと考える。この授業は到達目標として、ドイツ語による基礎的なコミュニケーション力を養うとともに、ドイツ語の多様な学び方を知ることも掲げている。日頃の授業の様子と今回のアンケート結果から、開講当初に設定していた目標に概ね到達できたと考え

。平均値が下がった設問（11）、（12）については、第3クオーター以降、宿題の方式を変更したこと、新たにレポート課題を採用したことに対し、教員側の働きかけが不十分だったのかもしれない。事実、設問（16）で宿題を以前の方式に戻してほしいとの要望があった。来年度から教科書を変更するため、宿題の方式もまた変更する可能性が高いが、学生たちのフォローに十分に注意を払っていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較＜国際科目群＞1
授業コード 13A01-901
教員名 BAYERLEIN, Oliver
教員コード 100842
登録人数 15
回答数 12
回答率 80.0%
休講回数 2 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I taught this class now for several years. Usually, there were always complaints about the number of pages the students had to read: They usually complained that the workload was too heavy to finish it in time.

But this year there was a large gap regarding the English reading ability among the students: For the first time some of the students finished reading very quickly, so they had a lot of time for preparing their presentations, while other students were still struggling with their texts. This made it difficult to work with this group.

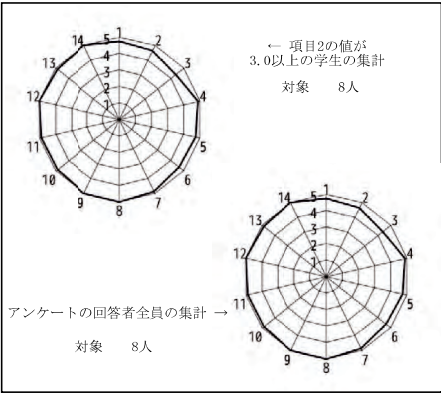
Furthermore, the interaction between the students themselves seemed to me quite disrupted. Therefore it was a kind of difficult to carry out the intercultural role games as usual.

For the next time, I have to consider how to deal with such obstacles, because of the nature of this class (containing students from all faculties from 1st grade to 4th grade) I always have to take in account such difficult situations in this class.

Last, as always, the contents and the form of this course are not fixed, but a matter of continuous improvement.

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い<国際科目群>
授業コード 13B01-901
教員名 RIESSLAND, Andreas
教員コード 101252
登録人数 9
回答数 8
回答率 88.9%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

With a student evaluation value well above any other university or departmental rating, the students' satisfaction with this course, with its format and its content is a matter of great satisfaction to me as a professional in education. It also well reflects the atmosphere throughout the course, exemplified best in the students' great involvement in the course and their many efforts to make this course a profitable experience for everyone involved. The students' insightful comments also are a great cause of satisfaction for me. I can see from these comments that this course has inspired the students to contemplate how history is a part of their everyday existence, and that learning about their country and its place in the world is an important and rewarding endeavour in their lives. This, to me, is easily the greatest reward I can expect as an educator.

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語科指導法B
授業コード 15B70-001
教員名 太田 達也
教員コード 101967
登録人数 1
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

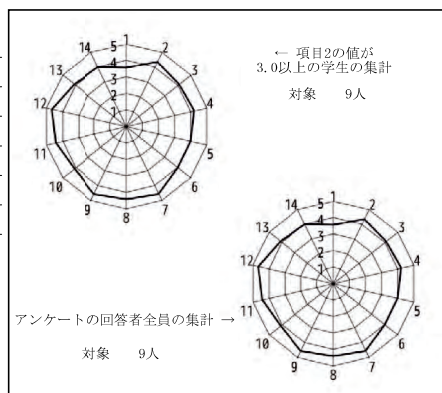
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者は1名であったが、当初予定していた目標、とりわけひとつめの目標、「科学知と経験知、理論と実践の両方を見据えつつ、独力でドイツ語授業を立案・実施・反省できる自律的な能力を身につけている」という点については、概ね到達したのではないかと考える。履修学生はきわめて積極的に授業に取り組み、毎回十分なりフレキションの機会を設けることができたと思う。ふたつめの目標である「外国語教育の実践者として必要な関連諸科学（言語習得論、学習論等）について深い知識を持っている」については、すでに他の授業においても関連する知識を得ていたこともあり、これも概ね達成されたと考える。みつつめの目標である「科学知を授業という実践の場において適切に活用しつつ効果的な授業を行う力、および発展的な自己改善能力、省察能力を身につけている」については、それがどの程度ほんとうに身についたかは、授業からはかり知ることは難しいが、教師の与えるヒントから自己解決に至ることができる様子から判断すると、外国語教師になるうえで必要とされるであろう自己改善能力、省察能力の高まりは見られたと評価することができる。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 基礎演習II (言語文化)
授業コード 34A06-001
教員名 坂本 真一
教員コード 104127
登録人数 41
回答数 9
回答率 22.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

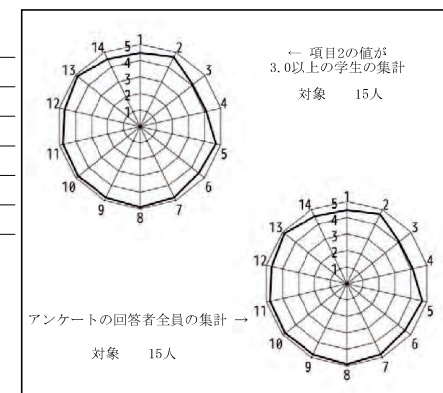
①当該授業では、当初設定していた目標と到達は概ね達成できた。ただし、履修者数と全体の授業時間数の関連で発表の時間数をより多く確保しなければならなかったため、講義の割合を当初の予定よりも減らし、その分、学生自身が与えられたテーマについてリサーチし、まとめることを重視した。

②受講学生のほとんどは、与えられた課題（リサーチ・発表・レポート）を遂行するにあたり、まじめに取り組んでいた様子は、平均値のほとんどが4以上となっていることと一致する。ただし、約40人の学生に対して9名の回答と、回答率自体は低いため、積極的に取り組んでいる学生の様子のみが反映されていることと推測される。

③シラバスを提出した当初は赴任前で、学生数を想定しないまま組んでいたのが、急遽内容的に全体の配分を変更することにつながった。基礎演習という講座の性質上、比較的自由度は高く、教員に一任されているものの、IとIIとIIIの質的な連続性も学科全体で考える必要があると思われる。この点は、学科全体に問題提起し、議論する予定である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 基礎演習II (社会)
授業コード 34A06-002
教員名 中屋 宏隆
教員コード 102885
登録人数 16
回答数 15
回答率 93.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。シラバスには「学生は、情報を整理し分析する力を習得することができる。・学生は、プレゼンテーション能力を向上させることができる。」の二点を挙げた。学生は担当回において、テキストにもとづきシラバスを作成し、個別発表を行った。それにより、情報分析や収集能力の向上が図られた。設問6が4.53という数値からも、ある程度学生も学力の向上を実感したと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

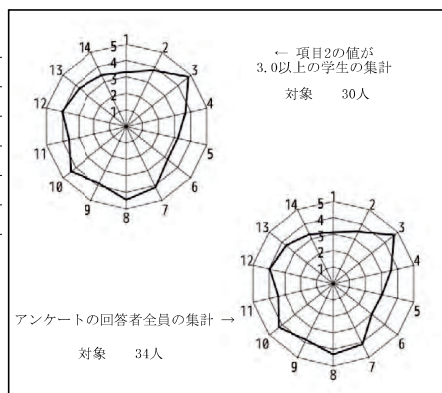
全項目平均が4.63ということで、概ね学生の満足度のいく授業が提供できたのではないかと。設問3と4が4程度で少し低めだった。来年以降はカリキュラムが二限に移動するので、こういう問題はなくなるであろう。あと、授業進度の速度は扱うテキスト量を減らすなどして調整したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

②で言及した点に加え、学生の演習における質問力向上の方策を、今後考えていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ史
授業コード 34A15-001
教員名 岡地 稔
教員コード 015206
登録人数 45
回答数 34
回答率 75.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

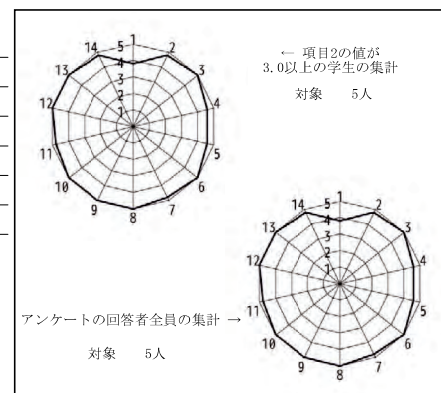
本授業はドイツ学科社会専攻2年生の必修科目として開講された。開講当初に設定した到達目標は、(1)歴史の動力学について理解が深まる、(2)史料批判・分析のありかたについて理解するようになる、の2点であった。授業内容は、ドイツ中世の国王選挙の一例を取り上げ、上記の目標の到達に向けて、具体的な事例から進めていくものであった。受講者に対しては、初回授業において、専門的な内容となることを話し、そのため全授業期間にわたる教科書相当のレジュメを配布し、あらかじめの通読を求めた。

全体の評価平均は3.77で、おおむね及第点と思われる。ただ、到達目標に関わる設問(5)「この授業の到達目標を理解することができましたか」、設問(6)「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」がそれぞれ3.06、3.00と極端に低く、全体の評価点を下げてしまった。残念ながら受講生にとっては難しい授業内容であったようである。難しい内容であっても、どのようにすれば学生が理解を進めることができるか、改めて考えていきたい。

レジュメ・資料の多さ、詳細さについては自由記述欄で好意的な評価が目立った。今後の励みとしたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献講読(ドイツ語圏の社会) 1
授業コード 34A24-001
教員名 林田 雄二
教員コード 017434
登録人数 34
回答数 5
回答率 14.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標：

1. 比較的高度なドイツ語表現(表現方法、文法構造)に触れる機会を得、それを理解することが出来るようになる。

コメント：基礎から上級に至るまで、テキストの文章構造を細かく説明した。目標は達成できた。

2. 文学作品の背景にある歴史、文化、社会を理解することが出来るようになる。

コメント：テキストを読みながら説明し、不足分は資料を配付した。また、映像・音声資料も利用した。目標は達成できた。

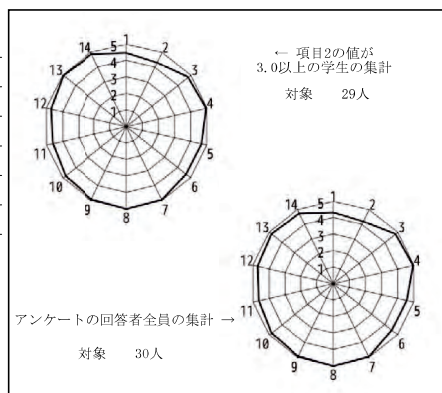
3. 作品を通して、ドイツ人理解の扉を開くことが出来るようになる。

コメント：様々の社会状況、歴史の中で生きるドイツ人を取り上げた。この目標もある程度到達できた。

テキストには様々の時代、社会状況の中で生きる作家たちの作品や、エッセー、または当時の新聞記事などを使用した。それぞれの時代のイメージ造りを補うために、研究資料も配付し、映像・音声資料も提示した。ドイツテキストの講読に際しては、初級から上級に至るまで、様々の文法事項を徹底的に説明し尽くし、文法資料も適宜配布し、履修者のテキスト理解を助けた。少数の回答しか得られなかったが、授業評価の評価には満足している。毎回、授業評価の回答者が少ないので、講義最終日に、この意義の説明を加えて回答を促したが、回答者数は少数にとどまり、残念である。次のクォーターでは、10-20分の時間をとり回答させたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史の諸相1
授業コード 13B06-001
教員名 宮原 佳昭
教員コード 102232
登録人数 34
回答数 30
回答率 88.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

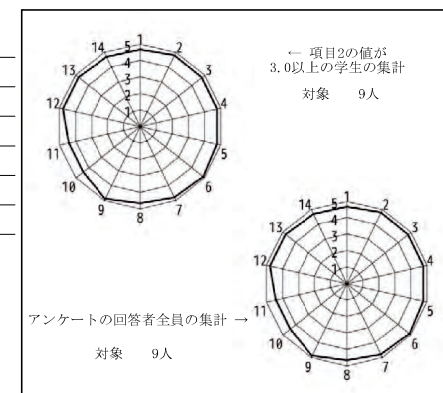
本授業の到達目標は次の3点である。①儒教の教義、およびその変遷を理解している。②東アジアにおける儒教の社会的位置づけ、およびその変遷を理解している。③儒教の世界観、儒教の歴史的意義および現代的意義について、各人がイメージを形成している。

上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の2点である。
①授業内容に関する文献資料および映像資料を活用して、学生のイメージ形成を促した。②毎回の授業でリアクションペーパーを配布し、「本日の授業で興味を持った部分の要約と、それに関する疑問または不明点」をまとめさせ、次の授業の冒頭でそれらの疑問または不明点に教員が解答することで、授業内容のさらなる理解を促した。これらは学生の自由記述欄でも好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

一方で、学生1名からのコメントとして、「欠席時などの連絡のために、教員のメールアドレスを公開してもらいたかった」というものがあった。これは、私の失念によるものである。私が担当している共通教育中国語科目では初回のガイダンス資料にメールアドレスを記載しており、本授業でも同様に公開していたつもりであったところ、改めて本授業の資料を確認すると、記載していなかったことに気づいた次第である。今後は忘れずに記載し、受講生が連絡がとりやすい体制を整えたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II語法1
授業コード 35A08-001
教員名 鈴木 史己
教員コード 103651
登録人数 11
回答数 9
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

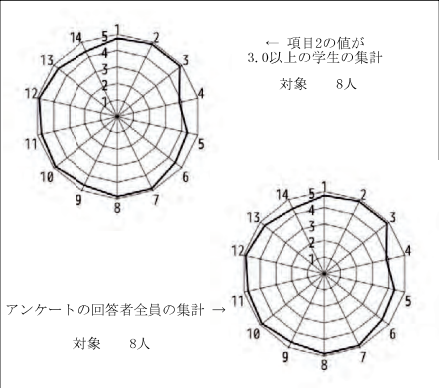


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目の目標は、中級中国語 I 語法で習得した文法事項を応用し、さらに様々な語句や構文の機能について、その使用の実際に即して学習することである。教科書に沿って文法事項を確認し、応用力を養うために短文の中国語訳課題を課したが、今年度は受講生のレベルが例年より高く、学習事項の定着度が高かった一方で、時には授業に退屈している様子も見えたように思う。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データはおおむね高い評価が得られているが、受講生のレベルに合わせた授業を提供することができなかったという反省がある。全体に授業内容がスムーズに消化できたため、授業時間をもてあます日が何度かあり、少なくとも今年度に関しては、自由記述の意見にあるような自由作文の課題を追加するなどの対応をするべきだったと考えている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
評価が低めだった声の聞き取りやすさや私語に対する対処等の項目は、普段の授業時に常に気をつけていきたい。また、受講生が自ら考え、発言する機会を設けるよう工夫すること、受講生のレベルに合わせた授業ができるよう進め方の引き出しを増やすことにもとりくんでいきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語II読解1
授業コード	35A10-001
教員名	中 裕史
教員コード	017830
登録人数	9
回答数	8
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

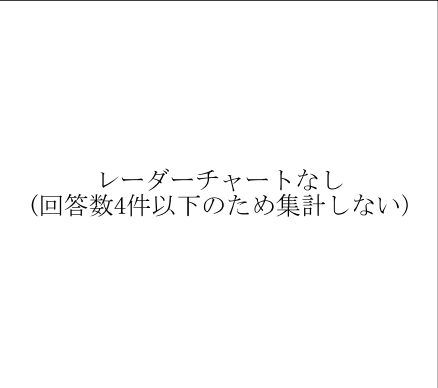


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業が設定する到達目標は中国語検定2級に対応する読解力を身につけていること、および2000語程度の単語を使いこなせることの二つである。毎回の授業で全員に提出を求めている長文の日本語訳の出来、および期末試験を含めて3回行ったテストの出来を見る限り、これらの到達目標は達成できたといえてよいと思われる。設問6の平均値が4.50となっていることもこれを裏付けているといえるだろう。本授業は、習熟度別編成を行っている中級中国語Ⅱ読解でレベル上位のクラスであり、受講生が9名と少ないこともあって、受講生一人一人と向き合う時間を比較的多く取ることができた。設問9から設問12までの平均値が高くなっているのは、こうした少人数クラスで双方向の授業が実現できたことも大きく与っているものと考えている。ただ、レベル上位のクラスを意識するあまりに、開講当初は読解対象の文章を多くしすぎてしまい、受講生の意見に従って、後半からは文章の量を減らした。この担当者の勇み足が設問4の3.88という平均値に反映されている。自由記述に「予習はたいへんだったが内容は面白い」と書かれているが、中国や台湾の20世紀の状況が理解できるように、長文の内容を統一性のあるものとしたことは、受講生の学習意欲を引き出す上で効果的であったので、次年度以降も進度に注意を払いながら、こうした方法が続けていくつもりである。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国の現代事情1
授業コード	35B04-001
教員名	松戸 庸子
教員コード	100087
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

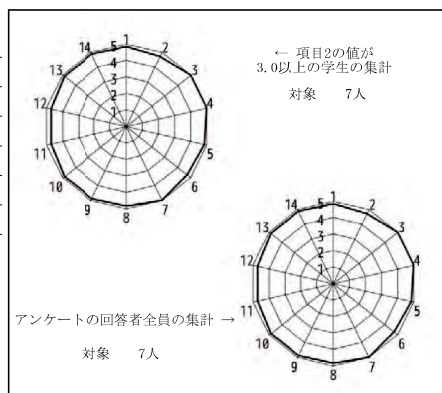


授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生が5人で、アンケート非実施のクラスとなった。
受講生の5名の内訳は、2年生2名、3年生3名だった。シラバスで厳しい授業運営を提示したことが受講生数の少なさを目に他ものと反省している。
しかし結果的に、受講生はみなとても熱心で、特に2年生の1名は3年生以上の力をつけてくれた。
皆、学習意欲が高く、教員としてはやりがいのある授業となった。
この科目は、現代の中国の社会事情を理解しつつ、中国語の運用能力を高めることが目標であった。
当初は張り切りすぎて、新聞記事やネットニュースなどを教材として採用した。しかしながら中国語の特徴で、表音文字であるために、発音がわからない単語が多いことで、学生の予習がきわめて困難だとわかり、途中から発音記号（ピンイン）のついた教材に転換した。
今年が初めての科目であったために、教材選択に少し無理があったことを深く反省している。来年度は、2年目になるので、今年度と同じ過ちは犯さないつもりである。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語時事B
授業コード 35C09-001
教員名 蔡 毅
教員コード 100086
登録人数 15
回答数 7
回答率 46.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目名は「時事」として、市販のテキストを利用せず、随時中国の新聞や雑誌およびネットから新しい記事を取って授業で使っていたため、適切なものを選ぶのに大変苦労しましたが、全体からみれば、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したと思います。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

統計の数値から見れば、(2) (6)、すなわち授業に主体的に参加しているか、到達目標に向けて力がついてきているかという点では、評価が十分ではありません。これは学生側の努力にもかかわることとはいえ、自分には学生に明白に示せず、説明不足という問題があるのではないかと思います。

なお、(11) (12)、すなわち学生の学習意欲を引き出し、自主的な学習を促すための指導という点において評価が高くないことも気になります。これは勿論自分の責任で、学生が不満であれば、適切とは言えないでしょう。

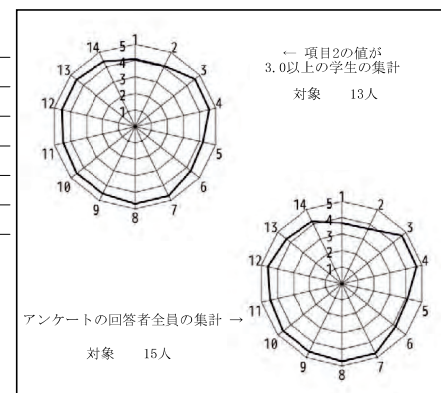
これからは次の二点にさらに力を入れようと考えています。

まず、中国の最新情報を取り入れる際、難易度を十分に配慮したうえで、学生に対して授業の出席および予習や復習についてより具体的に要求し、学習の意欲を一段と高くさせることです。

そして、より中国語を使い、現在の中国にいるような臨場感で、活発な議論ができる、真に「時事」という科目名にふさわしい授業を学生に提供できるように、取り組んでいくことです。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 華人社会研究
授業コード 35C20-001
教員名 張 玉玲
教員コード 101049
登録人数 53
回答数 15
回答率 28.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

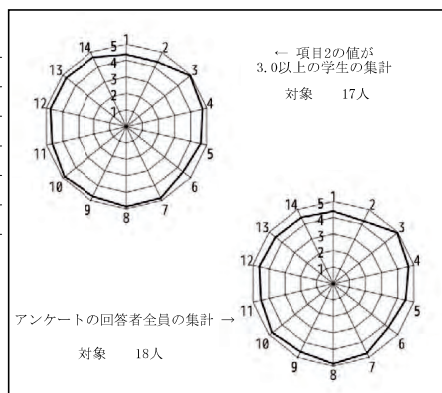


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、1. 華人の移住要因について、送り出し側と受け入れ側の両方から理解すること、2. 華人社会の形成・構造・変容について、華人を取り巻く国際情勢など多角的に分析できること、3. ある国・地域の華人社会に焦点を当て、問題を発見し、自分の見解を加えながら考察できること、の三つを目標としています。アンケートの結果を見る限り、おおむねこれらの目標が達成できたのではないかと思います。教員の熱意が伝わったとする声と比べ、力がついたと実感したというものがやや低いのが気になります。語学のような科目ではなくすぐには実感できないところがあるでしょうが、実際の生活や体験に直接結び付けられないものがあることも、理由として考えられます。今後、受講生にとってより身近な事例を取り上げ、授業内容と結びつけながら、グループ・ディスカッションなどを増やしていくことで、受講生の問題分析や解決能力を上げていくことを課題とします。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア文化研究
授業コード 35D12-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 31
回答数 18
回答率 58.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

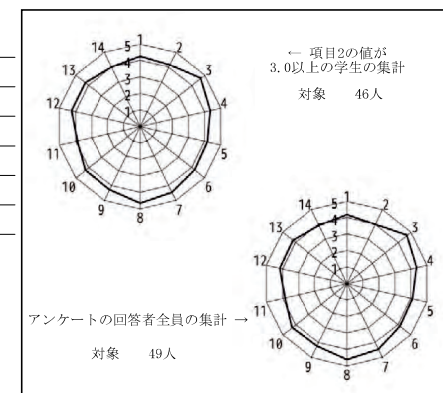


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は「異文化（インドネシア）を意識し、それに対するじゅうぶんな知識をもっている」ということです。そのためにこの授業は講義と実習形式で行われました。インドネシアの様々な民族の特徴をパワーポイント及び動画を使用して紹介しました。学生の皆さんがどれだけインドネシアの文化および自分の文化を意識するのかを確認するために、リアクション・ペーパーを書かせ、プレゼンテーションをさせました。「この授業の到達目標を理解することができましたか」に対する「4.50の平均値」の評価点を考えて見ますと、この授業の到達目標は到達したのではないかと思います。パワーポイント及び動画を使用して講義するのが良かったと思います。これは学生からの評価も確認することが出来ます。「実際の映像を通して現地の文化を知ることができた」、「授業の時間にみた動画等がわかりやすかった」、「動画や写真を多く使用していて、イメージがつかみやすかった」、「動画等の音声教材も充実していたため理解が深まった」という学生からの評価です。ですので、次回のクォーターでもパワーポイント及び動画を使用して授業を進めていきたいと思えます。それに伴って、学生の意識と理解を確認するために、次回のクォーターでもリアクション・ペーパーとプレゼンテーションをさせようと思えます。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A1
授業コード 12C08-001
教員名 林 尚志
教員コード 017897
登録人数 83
回答数 49
回答率 59.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

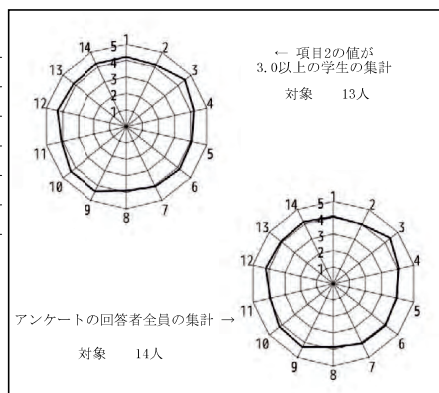
本講義では、パン屋さんの売上げと利潤、原油価格の変動とその背景、コメの輸入自由化がもたらす影響など、身近な例を取り上げながら、「ミクロ経済学の基本的な考え方」に対する学生の理解を深めることを目標とした。そのために、講義中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、それら疑問への解答を探るという形で講義を進めた。

この目標の達成度については、各項目に一応の評価が得られるとともに、「経済学の基本を身近な話題と関連させながら学べた」、「身近な事柄を用いたケーススタディのため、各節内容がイメージしやすかった」等のコメントがあった。その背景として、あ) 受講者への問いかけ等を通じて学生の理解度を確認したこと、い) 理論的な説明と身近な具体例との対応に心がけたこと等が挙げられる。

その一方、今後の課題としては、設問（9）と関連し、「講義のペースがよく、解説がわかりやすかった」、「留学生の私にとっても、すぐ理解しやすかった」等のコメントがある一方、「メモが遅れ、大事なところを聞き逃すことが高頻度であった」、「表やグラフの説明で、理解できないところがいくつかあった」等のコメントも見られたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことを目指し、板書内容を精選していきたい。また、設問（11）に関し、「原油価格と世界情勢」、「TPP交渉の展開」等を紹介したが、「関連文献や資料紹介」等で工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B2
授業コード 12C09-002
教員名 大谷津 晴夫
教員コード 015222
登録人数 47
回答数 14
回答率 29.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

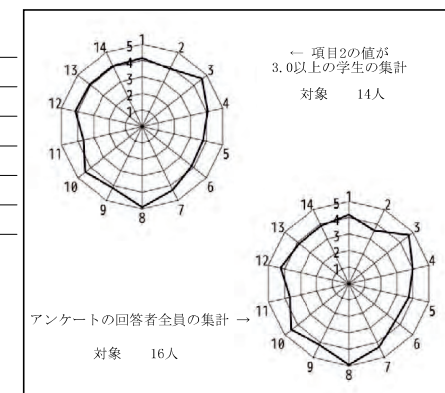


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目について、設問1～14の平均が4.10、設問3～14の平均値が4.11であったことは、総合的に見て合格点の評価をもらったと受け止めている。その中で設問3、4、9の値が4.43、4.07、3.93であったことは、授業の形式面の条件を充足していたという評価と受け止める。また、設問7の4.07の評価に示されているように、授業への真摯な取り組みについての評価も合格の水準にあり、全体的な満足度を問う設問14の値も4.14とまずまずの水準にあると評価できるとともに、設問6の到達目標にかかる評価も4.07と一応合格点をもらったと考えている。授業履修前の興味度が4.07で、参加度も4.00であったのに対して、新知識を得られたとする度合いの評価が4.07なのでまずまず期待を裏切らなかったとしてよいだろう。ただし設問11の評価が3.93と相対的に低かったので、学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すもう一段の工夫が必要だろう。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プライバシーと倫理
授業コード 13C03-001
教員名 阪本 俊生
教員コード 017020
登録人数 35
回答数 16
回答率 45.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



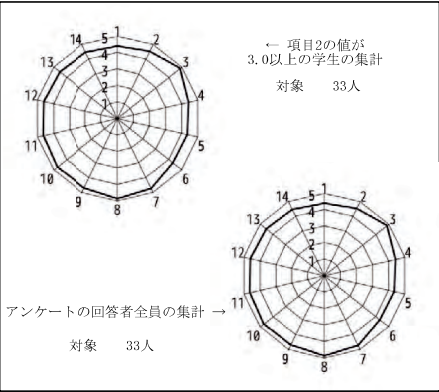
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、プライバシーの基礎知識の修得、近代化とプライバシー意識の形成がどう関わっているかということ、また現代の個人情報問題や監視社会問題について、一定の理解をもつことを目標に掲げていた。だが、今回のアンケートおよび試験の採点結果からは、これらが十分に到達できているとはいいがたいことがわかった。理解できている学生とそうでない学生との二極分化も目立った。個々のアンケート結果では、質問項目、2、5、6が評点3台と低く、到達目標がはっきりと伝わっていなかった問題が考えられる。また質問11の自主的な学習を促すことも足りなかったようだ。これらが全体的評価の低さにも影響しているといえよう。自由記述回答には、毎回配布した質問紙の質問に丁寧に答えたこと、質問の機会が充実していたといった評価もある一方で、抽象的説明の部分が理解できない、ウェブクラスの補助教材がわかりにくかったといった指摘もあった。

今後、これらの意見を真摯に受け止め、本講義の到達目標を繰り返し学生に伝え、内容をさらに平易で具体例の多いものとし、配付資料もよりわかりやすくなるよう工夫したいと考えている。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済英語2
授業コード	40C01-002
教員名	小林 佳世子
教員コード	100487
登録人数	43
回答数	33
回答率	76.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、英語で書かれた経済学のテキストを読むことと、簡単な英語の本の多読を行うことの2本の柱を通して、特に英語が苦手な人であっても英語を楽しんで勉強し、「読める！」という実感を持って英語学習を続けていくモチベーションを養うことを1つの目的としていました。

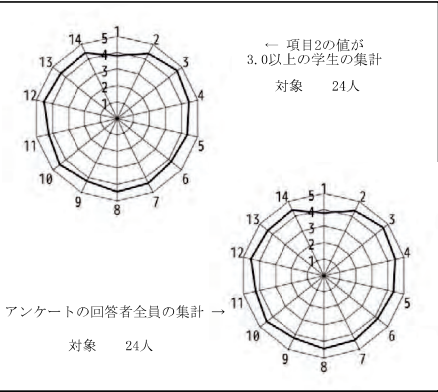
自由記述欄や別途行ったアンケートを見ても、「多読楽しい!」「多読で色々な種類の本を紹介していただき楽しみながら読めた」「予習は大変だったけど、ちゃんと勉強出来てる感があってよかった。多読もだんだん読める感じがあった」など、多読を楽しんでいること、また読む力がついてきているというコメントが多数ありました。英語のテキストも、学生さんに説明してもらうやり方と合わせて、今まで以上に解説を丁寧にしたこともあってか、「非常に力が付いた!」「経済学の基礎が身についた!」といった声が多く、この点もうれしく思っています。

多読で使った本はイギリスの小学校のテキストなど易しいものを中心としていたため、簡単すぎるのではないかと不安もありましたが、「こんな本で最初は大丈夫なのかと思ったが、簡単な本を読むことでこんなに力が付くと思わなかった」「多読は嫌いだったけど、初めて楽しく勉強ができた」「読むのが早くなった」など、こうした取り組みを評価する声が多く、うれしく思っています。

結果的に評価も高くなり、その点も素直にうれしく思っています。教室が寒かったという声が多かったので、次回その点は気を付けようと思います。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(政策)A
授業コード	40C04-001
教員名	焼田 党
教員コード	102065
登録人数	45
回答数	24
回答率	53.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

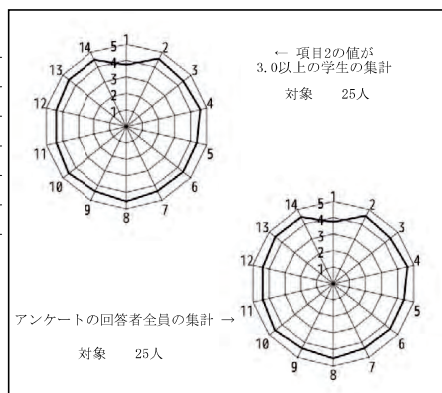


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業目標は達成できたとは言えない。FRB副議長の中央銀行の独立性に関する講演なのだが、そもそも中央銀行の位置づけを理解していない学生がかなりいた節がある。この解説を十分にすることが目的ではなく、著者の時代の独立性確立をめぐる背景と、最近のMMTなどに関する議論への変化を解説することを目指したが、至らなかった。②もともと、内容については興味を持たないまま授業に臨んでいた学生が多かったようである。しかし、最終的には、アンケートの内容からは多少の興味を持ってくれたように感じ取れる。うれしいことである。週2コマのペースでは、時間の制約から予習をしてくる範囲が多くなく、進みがのろくならざるを得ない。「ここから後は予習してない」という発言を複数回聞いた。その日の内容で、専門用語や説明に興味を持ってくれそうな点を見つけて解説したが、受講生は先を和訳することに一生懸命になっている印象を受けた。簡単に機械翻訳が可能なこの時期には、学生によってさまざまな学習をするようで、授業の方法も変化させるべきかもしれない。③前述のように和訳による購読ではなく、内容把握という形で進めようすると、予習が大変になるというジレンマを生じる。この点、将来的には考える必要があるかもしれない。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(政策)B
授業コード 40C05-001
教員名 相浦 洋志
教員コード 103642
登録人数 38
回答数 25
回答率 65.8%
休講回数 1 回
補講回数 2 回

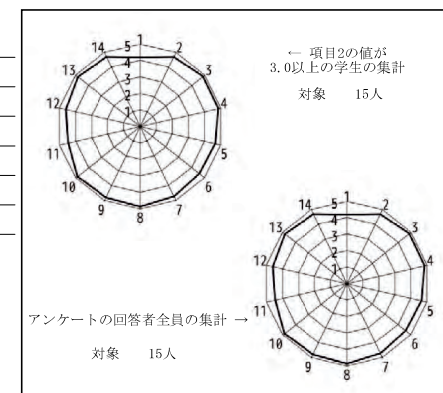


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義ではマクロ経済学に関する英文のテキストを読み、英文による専門書の読解力を深めると共に、専門書の内容を自分の言葉で分かりやすく説明できるようになることが目標である。アンケートでは、“授業の内容について興味を持っていたか”に対する結果が0.3ポイント以上、低かったのにもかかわらず、“授業時間”および“授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さ”を除いた全項目で学部平均を上回っていたことから、生徒の実感としては概ね目標を達成できたのではと思われる。この高評価の理由としては少人数毎のグループをつくり、そのグループに対して学習内容を説明するという授業スタイルが学生の授業参加に対する意識を高めたからと考えている。来年度は当科目の担当ではないが、将来、当科目を担当することになってもこのスタイルを踏襲して授業を進めたいと考えている。ただ、期末試験において重要な点として補足説明していたにも関わらず、ほとんどの学生が理解できていなかった個所があった。この授業は反転授業のスタイルであり、生徒の理解が不十分な部分に対して補足説明を行ったいるがその理解が上手くできていないと考えられる。補足説明は私からの一方的な説明をしているが、この部分に関してもディスカッションを取り入れるなりして、より理解が深まるように授業を進めていきたいと考えている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(歴史と思想)A
授業コード 40C08-001
教員名 川本 真哉
教員コード 103865
登録人数 22
回答数 15
回答率 68.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

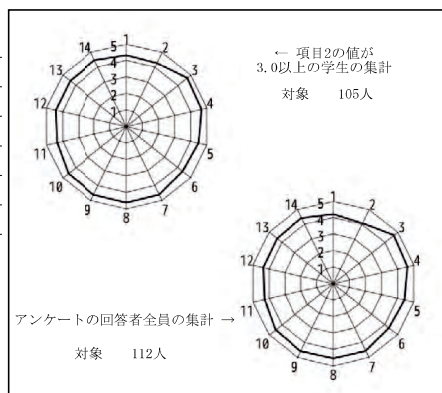


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標と到達の程度について
この授業の目標として、①戦後、日本経済はどのように発展したのか、②経済発展を可能にしたシステムは何か、③今日、日本経済はいかなる課題を抱えているのか、などのトピックについて英文で学んでいくことを掲げていた。当初予定していたトピックについて解説をすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと理解している。
- ②総合的な自己点検・評価
質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.67ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、項目8、項目9、項目10、項目13が4.8ポイント以上となっており、声の聞き取りやすさ、配布資料の配慮、授業環境の維持等が評価された。その反面、項目1が4.2ポイントとやや低く、この点については改善の必要があることがアンケートから読み取れた。
- ③今後の抱負、方針
テキストの内容を補足する資料の解説と、各テーマのごとの理解度を確認する単語テスト、小テストの実施が評価されたものと理解している。この点については継続していきたい。今後の課題として、講義受講前に受講者の関心を高めるような情報提供（シラバス）について工夫が必要のように感じられた。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代経済入門
授業コード 40D01-001
教員名 都築 栄司
教員コード 103265
登録人数 269
回答数 112
回答率 41.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

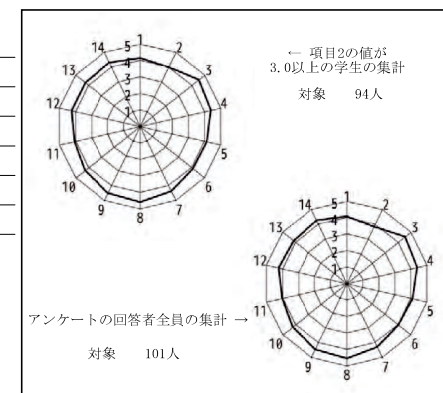


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
ミクロ経済学は完全競争市場から市場の失敗まで、マクロ経済学は経済指標の解説と財政・金融政策について解説した。
入門科目ということで、分かりやすさを重視し、図表を多用するなどしてスライドを作成した。
目標はミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方を理解してもらうことであったが、それは過不足なく達成された。
学生の多くもよく理解できていたようである。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
講義資料を毎回WebClassにアップロードし、各自が理解の程度や速さに合わせて学習できるよう配慮した。
またほぼ毎回、理解度の確認のための練習問題に取り組んでもらった。
いずれも好評のようである。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
時間の制約上、実習は行わなかった。
身につけた知識を身の回りの問題に応用できる力を養うことも重要である。
そうした時間も作りたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計論B
授業コード 40D14-001
教員名 宮崎 浩伸
教員コード 101892
登録人数 310
回答数 101
回答率 32.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

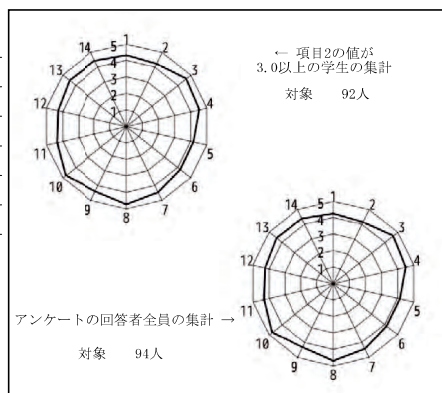


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 開講当初に設定していた目標に対する到達度としては、まずまずの結果であったと思うが、今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.28、設問1～14の平均値が4.23であり、前回のこの科目での結果と比べると、少し改善したようである。
- しかし、個々の授業評価項目では、設問5, 6, 11が低い値となっており、何らかの対策が必要である。そこで、今後の改善すべき点としては、以下の2つが挙げられる。
1. 授業の到達目標を理解し、到達目標に向けて、力がついてきたことを実感してもらう。
 2. 学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導・情報提供を行う。
- これらの課題には、到達目標をその都度、授業の中でも繰り返し、例えば、新聞記事を活用して、理解が深まったことを確認することが有効かと思われる。このような姿勢で次の授業は行いたい。
- 自由記述欄では、「生徒側の理解度をみながら授業を進めてくれているようである」、「プリントが一つ一つわかりやすい。」、「生徒の興味のある事柄に沿って講義の内容が考えてあり、個人的に最後まで楽しめるものでした。」、「丁寧に説明してくれていた。」等の肯定的な意見を多くもらえただけでなく、改善点は特にないと意見が多かったので、引き続き、これまでのような授業運営で進めていきたいと考えている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学特論
授業コード 40D21-001
教員名 赤星 立
教員コード 103866
登録人数 191
回答数 94
回答率 49.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義で学生に課していた目標は次の4点である。(1) 余剰分析という技術を修得すること (2) 各単元で扱われる市場の分析ツールを使いこなすこと (3) 各単元において、なぜ市場がパレート効率的な資源配分の実現に失敗するのかを理解すること (4) 各単元において、政策のあり方や具体的な政策の含意について理解すること (1)は本講義で最も修めるべき重要度の高い技術であり、講義中にも何度も登場した。(2) は目標を明確にするために独立した記述としたが、実際には (1) に含まれている。(3) と (4) は講義中に力点を置いて何度も繰り返し説明した。以上のことから、本講義において目標は十分に達成されたといえる。

②履修者数191名のうち半数近い学生が回答してくれている。毎回の講義出席者は目測で120名程度であった。したがって、実際の受講者の大半が今回のアンケートに協力してくれたことになる。どの項目についても高い評価がなされていることから、概ね満足している。

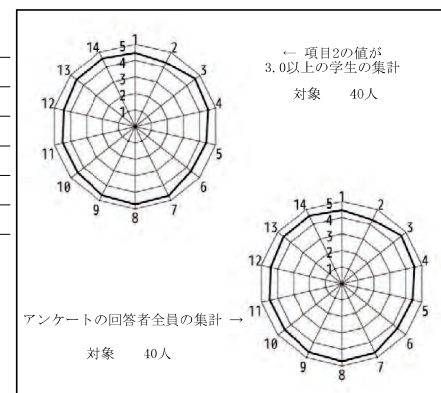
自由記述として復習のための練習問題の解答を要求するものが多かったが、この方針を変えるつもりはない。

③相変わらず本学の学生がシラバスを読まずに履修登録をすることと、出席率が低いことを懸念している。

ほとんどの学生が試験前にしか勉強していないように見受けられた。授業、部活（サークル）、アルバイトと学生は非常に忙しそうだ。これでは物事をじっくり考える時間など作れないのではないかな。こうした学生に、何とか、経済学を単なる机上の空論ではなく、思考の技術として習得してもらいたい。講義で扱うトピックスを削ってでも、講義時間の一部をそのために使おうと考えている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マクロ経済学特論
授業コード 40D22-001
教員名 稲垣 一之
教員コード 104110
登録人数 133
回答数 40
回答率 30.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「開放経済における金融・財政政策の効果を理解できる」という目標については、期末試験の結果から判断して、誤った理解をしている学生がやや目立ちました。講義中に何度も復習して、練習問題も期末試験のかなり前から配布しておりましたが、次回までに対策を考えたいと思います。
その他の目標については、期末試験の出来が非常によく、目標水準に到達できたと判断されます。

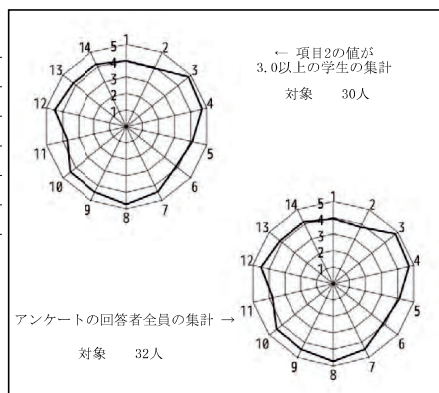
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

「説明が分かりやすい」といった趣旨のコメントがほとんどでした。直感的に分かりにくい理論は、実際のデータを説明の捕捉に使っていましたが、こういった取り組みが評価につながったのかもしれませんが、また、質問項目13や14（総合評価）については学部平均値をかなり上回っており、自由記述では授業改善に対するコメントはなく、講義内容には特に問題はなかったと判断されます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
比較的良好な評価であったと思われます。説明が分かりやすい点が好評であったため、次回以降も気を付けて講義を進めていきたいと思っています。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(政策)A
授業コード 40D42-001
教員名 大鐘 雄太
教員コード 103641
登録人数 61
回答数 32
回答率 52.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「企業の資金調達の方法について理解できる」ことを目標とした。授業評価アンケートおよび定期試験の結果は概ね良好であったため、この目標を到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

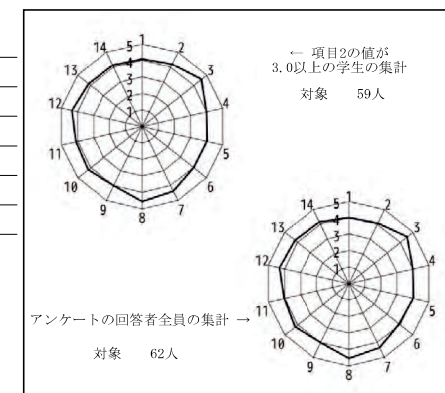
数値データでは、「授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうか」に関する質問項目（設問6）、「積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供」に関する質問項目（設問11）が、昨年度に引き続き3点台にとどまっていた。一方、(1)昨年度に3点台だった「授業の到達目標を理解することができたかどうか」に関する質問項目（設問5）が4点台になったこと、(2)設問1から14の平均が4.22から4.28に上昇したこと、(3)設問3から14の平均が4.28から4.35に上昇したこと、の3点は昨年度からの改善が反映されたものと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回の特別テーマ講義(政策)Aでは、全体的な満足度のさらなる向上を図るべく、履修生が授業の到達目標に向けて力がついてきていると感じるような工夫（例：練習問題）を凝らす予定である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(国際)A
授業コード 40D58-001
教員名 寶多 康弘
教員コード 100751
登録人数 170
回答数 62
回答率 36.5%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

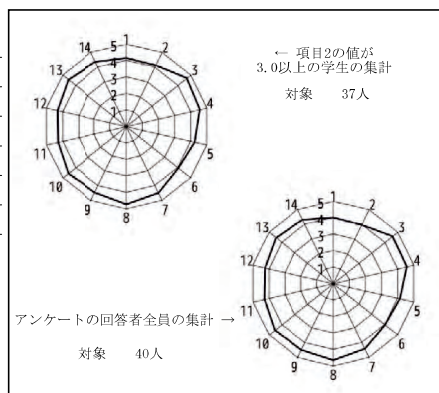


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回初めて担当した講義で、国際問題についての特別テーマ講義である。国際経済学を受講していない場合でも理解ができるように、国際経済の統計データや簡単な理論など国際経済学の基礎的な内容をまず説明した。その上で、3つのテーマについて個別に解説を行った。第一に、開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。初めて担当したこともあり、若干内容が盛りだくさんで、学生には分量が多かったかもしれない。だが、図表を多用して説明したので好評であった。最新のテーマも含まれており、英語文献の解説となるテーマもあった。最新の研究動向の紹介では英語文献は必須なので、英語での解説は不可避である。第二に、理解度の確認のためのレポートを課して提出を求めた。学生の理解度を把握して授業内容や進め方を調整することができた。他の基礎の関連科目の理解の助けになるように心がけた解説を行ったので、初めての担当であったが概ね学生からの反応は良かった。今後の学びにどのようなつながるかをより一層丁寧に説明して、学ぶ意欲を高められるようにする。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋経済史B
授業コード 40D61-001
教員名 梅垣 宏嗣
教員コード 102397
登録人数 102
回答数 40
回答率 39.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



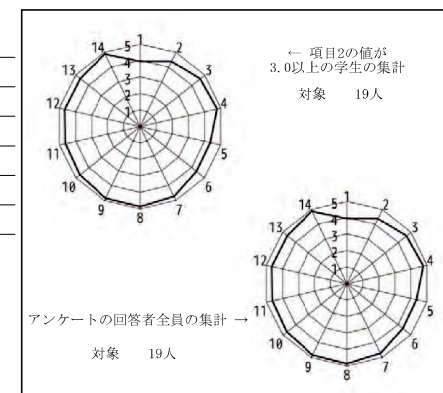
授業評価結果を踏まえた点検・評価

少なくとも、定期試験の出題範囲として示した内容に関しては、多くの受講生が理解したものと考えられる。ただし、授業内容全体に関してその魅力を十分に伝えることができず、集中して講義を聴いてもらえたかといえそうではなかった。授業評価そのものに関しても、本講義に対する無関心からか、授業評価を入力してもらうために確保した時間中に一切スマホ等に触れずに、読書をしている学生や寝ている学生もあり、関心を持ってもらうための努力の必要性を改めて痛感した。そのため、来年度からは、外発的な動機付けとはなるが、授業参加度を成績評価に含め、受講生が講義に積極的に参加できる形に変えていく。

また、今年度の第1Qにおける評価報告書においても述べたことであるが、体調管理が不十分であったことを反省しなければならない。この授業では、第1回を体調不良により急遽休講することとなり、その後もものどの調子が悪く、受講生に迷惑をかけることとなった。今後はこのようなことがないよう、体調管理に努めていきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳5
授業コード 10D04-005
教員名 高田 一樹
教員コード 102887
登録人数 22
回答数 19
回答率 86.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 被験者研究を講義テーマに掲げ、人間の尊厳への理解を深めることを目標として授業を行った。研究倫理が問われる背景には、被験者を手段化する「人体実験」の歴史がある。また公正な研究を目指す観点からインフォームド・コンセントやIRB制度など、被験者保護が制度化されてきた。しかしながら医学・生物学研究での研究倫理の制度化が、人文学・社会科学研究で過度な規制と管理につながる懸念についても理解を深めた。

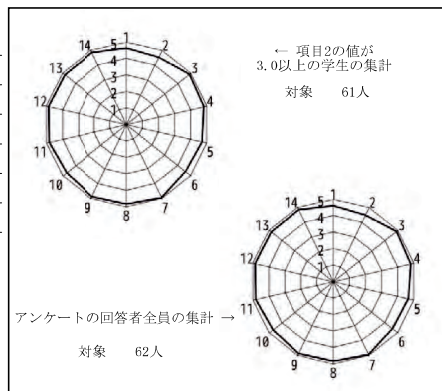
各回授業の後半では具体的な場面を設定し、受講者各自の意見をレジュメに回答させる機会を設けた。受講状況もおおむね良好であり、当初の授業計画をほぼ達成できたと考えている。

(2) 履修前の興味関心はやや低調だったようだが、全体を通じて4点台中盤の評価を受けた。授業満足度（設問14）も4.89点だったことから、学生はおおむね興味を持って受講したものと理解している。自由記述から、具体的な事例を教材とする説明方法が受講者の理解促進に有効であったことがうかがわれる。

(3) 昨年度の評価では設問6の評価が4点台を下回った。今年度は受講者の理解を確認すべく、双方向的な授業運営を心掛けた。またテレビや映画の一部など視聴覚教材を積極的に利用したことも高評価につながったと推測される。今後も、教材研究もさらに深化させたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学B5
授業コード 12C07-005
教員名 堀田 治
教員コード 103646
登録人数 199
回答数 62
回答率 31.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

■目標と到達の程度について

「舞台芸術と社会の関わり、社会への影響を理解」については、舞台芸術が各時代・各地域でどのように機能し、社会と相互作用してきたを解説した。メディチ家の芸術支援によりパレエやオペラといった新たなジャンルを生んだことや、バイエルン王国の事例を丁寧に引き上げ、統治者による援助がどのように変遷してきたかを、現代の企業メセナとの比較によって論じ、理解を深めた。「古典的な作品を知り、興味を持ち理解」については、数多くの名作や歴史に残る名演、アーティストの成長とキャリア形成を理解するためのドキュメンタリーを映像で見ながら、時代背景と現代に繋がる価値について解説した。「様々な機会を知り、鑑賞をよりよくできる」は、授業で多様な作品に触れたことに加え、最終課題として鑑賞機会を各自選りレポート提出させた。初めて舞台芸術を生で見たという学生も多く、舞台に触れるよい機会となった。

■総合的な自己評価

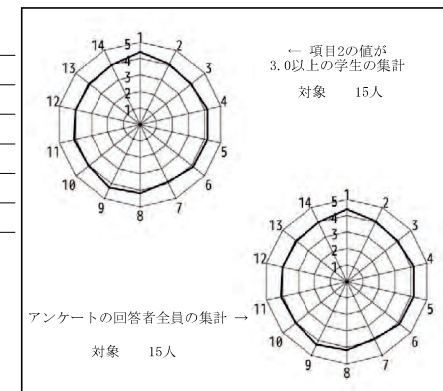
項目3～14の授業評価は4.80で、熱意や真剣さ、視聴覚教材の豊富な点が特に評価が高かった。「色々な芸術作品を鑑賞しながらその歴史等について知ることができた」「動画や画像の資料が充実していて、興味を持つことができた」「教員がわかりやすく熱心な動画解説を行っていた」と回答があった。作品の感想や気づきなどを毎時限欠かすことなく提出させたのも、聴取力と感性を高め効果的だった。「ここまで丁寧に感想プリントを読んで一言添えたり、質問に丁寧に答えてもらった授業は初めて」との回答もあった。

■今後に向けて

この年代の学生は、普段興味を持って接しているジャンルとは異なるものも抵抗感なく受け入れ、関与を高めてくれる素直さと吸収力がある。これを生かしてより一層、普段触れることのない芸術とその成立背景を魅力的に伝えられるよう努力したい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A5
授業コード 12C08-005
教員名 井岡 佳代子
教員コード 103647
登録人数 51
回答数 15
回答率 29.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

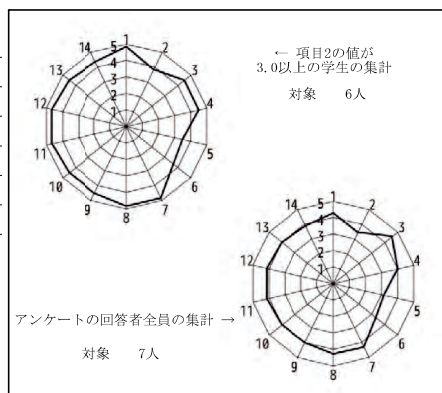


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当該科目においては、2019年度の2Qと同様に講義を前半・後半・後半とに分け、それぞれの中で重要な個所を取り上げて小テストを3回にわたり実施した。その結果、受講生の理解度を確認しながら講義を進めることができたことで、開講当初に設定していた目標と到達の程度は達成できたと考えている。また、受講生からのアンケート結果からは、数学が苦手な生徒にも好評な講義であったことが伺えた。当該科目では、数式やグラフだけでなく、理論を丁寧に説明したことが効果的な講義につながったように思う。加えて、より理解を深めるため、また、予習が可能となるように、ウェブクラスに資料を事前にアップしたことも好評であった。その反面、1名の生徒から「授業の内容が古く、現在の日本経済や世界経済におけるトピックを取り上げて欲しい」との要望があった。学問的レベルの観点から言えば、歴史的な文脈を無視することはできないが、可能な限り次年度に向けて改善をしていきたいと考えている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B4
授業コード 12C09-004
教員名 李 エン
教員コード 103648
登録人数 21
回答数 7
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本授業では、資本市場で利用される会計情報がどのように社会一般に公開されているのか提示し、様々な方法で会計情報を始めとする企業情報を入手することにより、統計ソフトなどを利用して分析方法の学習を実施した。また、大学生に必要とされ、将来お仕事する際に役に立つ実践スキルを身につける目標についても、達成していると考えられている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

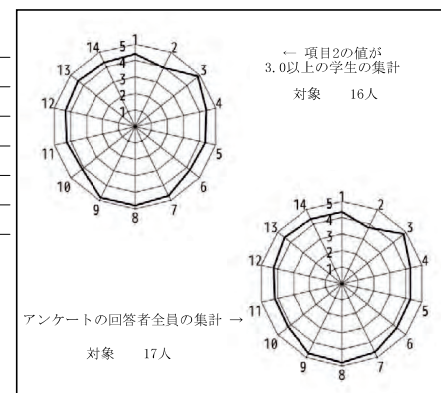
学生が統計ソフトや数字データなどに対して苦手意識があるが、学生は物凄く真面目に参加し、実際会計データや経営数値を用いて分析を行ったので、受講状況は良いと思う。また、学生が経営学に関する様々なテーマについて仮説を設け、積極的にシミュレーションし、授業の参加度が高い。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次クォーター・学期以降に向けて、配布レジュメに図を入れたり、動画を添付したり、より容易に理解できよう工夫する。また、講義を行う前に、事前に予め習得してほしいポイントを提示し、講義中により効率的に核心の部分について議論できるのではないかと考えられている。さらに、経営学の専門的な知識および実践技能を幅広く身につけることにより、企業の経済活動の中身、複雑な経済事象の対応、競争が激しい資本市場に直面する企業の経営課題、企業に関わる諸問題に貢献できるようになる能力の育成を抱負としている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B6
授業コード 12C09-006
教員名 山下 忠康
教員コード 101152
登録人数 51
回答数 17
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

1. 税金および税額計算の基本的な仕組みを理解している。
2. 不動産に関する基本事項を理解している。
3. 相続の基本を理解している。
4. 財産評価の基本を理解している。
5. FP3級試験に合格できる。

定期試験における各分野の得点から評価するならば、税金、不動産、相続、財産評価のどの項目も当初目標に十分に到達している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

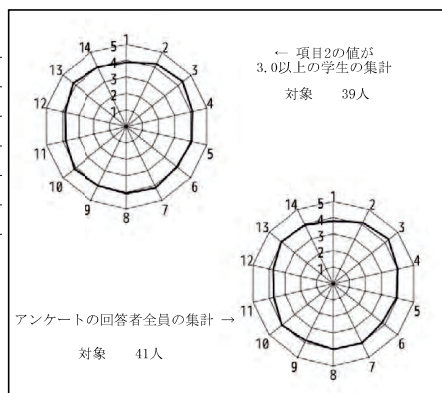
サンプル数が少ないので断定的なことは言えないが、毎回出席している履修生からは概ね妥当な評価が得られていると自己評価している。膨大な範囲を広く浅く説明しているので、不満を感じる履修生もいるだろうが、当方は最大限の努力を行っているつもりである。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

今後、1コマ100分授業になれば、もう少し教科書以外の知識も学生に与えることができるようになることを期待している。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境4
授業コード 13D06-004
教員名 長谷川 高則
教員コード 000162
登録人数 186
回答数 41
回答率 22.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標

この授業では、今後の住環境の在り方を検討するために、住宅政策の変遷を検証し住生活基本法について学習している。今年度も外国の住宅政策を紹介し、自然災害・少子高齢社会に対応する住環境整備、子育て支援・省エネルギー住宅について考察し、持続可能な社会のシステムと住環境について検討した。

2. 目標達成度

今回は受講者の学科別構成比が大きく異なったため、授業内容を見直し取り組んだが授業に集中できない学生も見られ、あまり検討した効果が期待できなかった。反省点としては授業範囲の拡大によって内容の整理が上手くいかなかった。最終課題のレポートは授業内容を反映して理想と現実を意識した住宅・住環境のあり方について各自まとめることができたと思う。

3. 授業評価

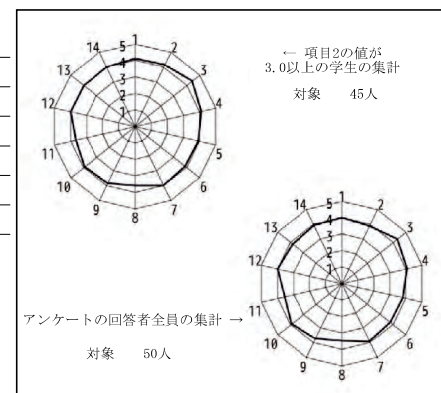
担当科目の項目1から14の平均値が3.95であり、前回の平均を大きく下回ってしまった。特に設問11の平均値が3.73であり残念な結果になってしまっている。設問1の評価を改善するのは難題であるが、設問11の評価に対しては興味がある情報提供の必要性を強く感じた。自由記述の回答については、それぞれ検討し今後の授業で改善していきたいと思う。

4. 今後の抱負

授業内容にもっと興味が持てるようにするため、理想と現実のバランスを調整しながら近未来のテーマも取り入れ夢が持てるように創意工夫し、これからの環境に優しい持続可能な社会システムについて考えられる授業にしていきたいと思っている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計原理B
授業コード 40F17-001
教員名 斎藤 孝一
教員コード 018259
登録人数 78
回答数 50
回答率 64.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

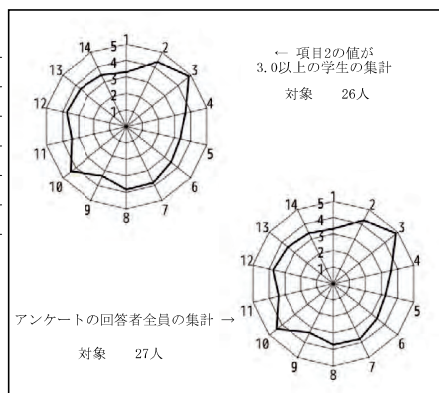
本科目は、企業会計の決算と精算表、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の財務諸表3表を取り扱ったものである。アンケートの結果は、設問1～14の平均値は3.88、設問3～18の平均値は3.87であった。授業の目標達成度については、設問6の平均値が3.78で、5と4を付けた学生が76%であったので、概ね達成できたと考えられる。設問(4)「授業の構成や進行速度は適切であったか」は平均値4.08、設問(14)「全体として授業に満足したか」は平均値3.92であり、ともに1をつけた学生は0であった。設問12「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」は平均値4.00であった。これらは評価できる点である。

設問(8)「教員の声や音声機器の音は良く聞き取れたか」は平均値3.48であったが、1をつけた学生が10.00% (5人) いた。また、設問(10)「私語、携帯電話、遅刻などに適切な対処がされていたか」は平均値3.94であったが、1をつけた学生が4.00% (2人) おり、設問16の「授業の改善してほしい点」でも取り上げている。規律を守れない学生への取り組みは課題である。

新しい試みとして、今回からウエブクラスに練習問題とテキストの誤字、校正ミスの訂正をのせた。設問15の「授業の良かった点、評価できること」に練習問題があげられていたので、一定の評価は得られたと思われる。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学II1
授業コード 42B04-001
教員名 宮元 忠敏
教員コード 017293
登録人数 82
回答数 27
回答率 32.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

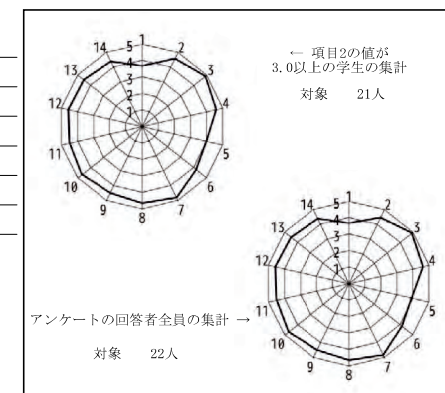
目標と到達の程度：1変数関数の微積分（3次程度、指数、対数、分数関数での微分と積分）、2変数関数の極値（偏微分と勾配ベクトルの性質）を講義の対象とした。シラバスで予定した項目について概ね解説を与えることができた。また、本年度は、1変数での証明を省き、2変数での制約付きの極値を取り扱った。

自己点検・評価：一方的な講義の場合、履修生のその場での理解がついてこないの、毎回、前回の復習のための演習の時間をとっている。50題前後の演習問題を解いた。また、モチベーションを上げるため、解答を積み上げるための用紙を枚回配布した。以下は、履修生のことば「授業速度が早く、ついていけない学生が多い」、「電気を消すと目がわるくなるのでやめてほしい」、「黒板の字が読みにくい、小さい」、「特に無い」、「大変難しいと感じた」、「私語にたいしての対処」、「生徒と教員の距離感が他の授業と比べて近く、より意欲的に授業に取り組めた」、「毎回復習問題を解く時間があるのが良かった」。

今後の抱負・方針：1変数関数の微積分は、高校程度の内容であるが、その基礎が重要である。2変数関数での、偏微分と勾配ベクトルを使用した解析方法は、1回しか偏微分しない分グラフィックスを与えて直観的に理解できるよう、さらに計算機グラフィックスを増やす予定である。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学II3
授業コード 42B04-003
教員名 池田 亮一
教員コード 101880
登録人数 100
回答数 22
回答率 22.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

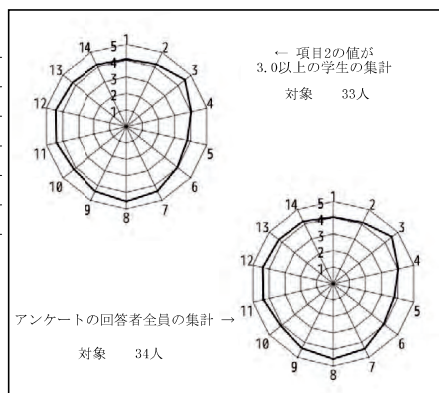


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は(1) 初等的な関数の導関数を計算したことがある。(2) 導関数を使って関数の増減を解析したことがある。(3) 初等的な関数の積分計算をしたことがある。(4) 2変数関数の増減を解析したことがある。の4つであった。どの目標に関しても授業で扱い、試験でもその一部を問うたが、特に質問もなく試験の出来も悪くなかったので、目標は達成できたものと考えている。アンケート結果を見る限り、こちらのやる気は学生に伝わっているようなのは、こちらのやる気も無駄ではなかったと思われる。去年はなかったアンケート結果として、内容が難しいというものがあつた。わたし個人の難易度として、春学期の線形代数の方がこちらの微積分よりも難しいと考えていたが、何人かの学生にも聞いてみたが微積分の方が難しいと感じている人が多かった。内容の3分の2は高校数学の基礎的な部分を行っているだけなので、これ以上扱う内容を減らすことはできないが、もう少し時間の配分を調整することにより学生の理解がより深まるかもしれないと考えている。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計原理II1
授業コード 42C04-001
教員名 窪田 祐一
教員コード 102901
登録人数 157
回答数 34
回答率 21.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

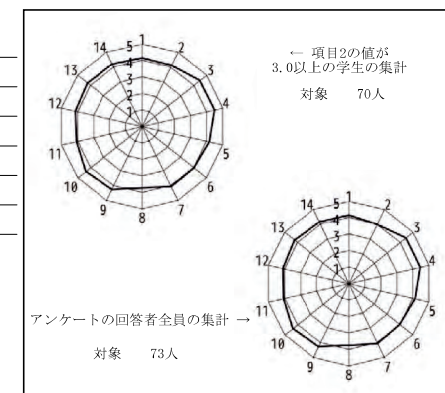


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業では、三点の到達目標（期間損益計算について説明できるようになること。貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基礎的内容を説明できるようになること。ビジネスにおける会計の重要性と必要性について理解していること。）を設定していた。多くの受講生は、概ね達成できたようである。アンケート回答を確認すると、達成できていないと感じている学生は、履修前から授業内容に関心を持っておらず、学習努力が足りなかったようである。関心がありながらも到達できなかったと考える学生は、主体的に授業参加ができていない、あるいは新しい知識を得ているものの不十分と感じている学生であった。
- ②選択必修科目であることもあり、授業に関心を持たずに受講している学生が他の授業より多い。多くの学生は、学習意欲を引き出す適切な情報提供があったと感じ、質問や相談の機会も十分と感じている傾向にあった。他方、授業の進行速度が速いと感じている学生が多かった。
- ③授業資料の配付はWebclassで行っており、受講生はパソコン等で資料を見ているが、一部の学生は資料以外のものをみていたりしたようである。今後は厳しく注意したい。また、学生の理解度を高めるために、授業内容を減らして進行速度を遅くし、問題演習など学生の主体的な学びの時間を増やすことにしたい。引き続き、受講生の会計に対する学習意欲が高まるように工夫していきたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 流通論B
授業コード 42C22-001
教員名 湯本 祐司
教員コード 017533
登録人数 227
回答数 73
回答率 32.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は小売業者と卸売者の行動の特徴と小売各業態の革新性とその変容を理解することを主な到達目標としている。経営学部の選択科目で履修者227名のほとんどは経営学部の2・3年次生である。昨年度より80名ほど増加している。宿題レポートおよび期末試験の解答をみるかぎり、およそ7割の学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者227名のうち70名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均は4.16と4.18で2年前と比較してどちらも上昇している（昨年度は授業評価対象外科目）。学生の評価の高かった設問は、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」（4.45）、4「毎回の授業の構成や進・速度は適切なものでしたか」（4.48）、10「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学・の・為に対して、適切な対処がされていきましたか」（4.38）。反対に評価の低かった設問は8「教員の声や・声機器の・はよく聞き取れましたか」（3.78）である。学生からのコメントでは、「分かりやすかった」「具体的な企業例が興味をひいた」など授業の良かった点のほかに、「マイクを通した声が聞きにくかった」というコメントが2件あった。次年度の改善点として、マイクの使い方に注意して、学生に聞き取りやすく話すことを心がけたい。